

もくじ

もくじ	1
はじめに	5
やりたいことを探そう！	10

1章 本体の機能

15

1 各部の名前	16
① 前面図	16
② 背面図	18
③ 裏面図	19
2 インジケータと各ボタン	21
① インジケータ	21
② ワンタッチボタン	22
③ オーディオプレイボタン	25
④ イージーボタンユーティリティ	26
3 キーボード	28
① キーボード図	28
② キーシフトインジケータの切り替え	30
③ キーを使った便利な機能	31
4 タッチパッド	35
① タッチパッドを設定するには	35
② タッピング機能	35
③ その他の設定	38
④ タッチパッドを無効／有効にするには	39
5 ディスプレイ	41
① ディスプレイの設定	41
6 ハードディスクドライブ	47
① ハードディスクドライブに関する表示	47
7 サウンド機能	48
① スピーカの音量を調整する	48
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	49
8 ドライブ	50
① 使用できるメディアと対応するアプリケーション	51
② 使用できるCD	52

③ 使用できる DVD	54
④ DVD-RAM を使うときは	56
9 SD メモリカード	61
① SD メモリカードについて	61
② SD メモリカードのセットと取り出し	62
③ SD メモリカードを使う前に	63
10 セキュリティロック	65

2 章 音楽と映像

67

1 音楽 CD を聴く	68
① Windows を起動して音楽 CD を聴く	68
② Windows を起動しないで音楽 CD を聴く	71
2 音楽ファイルを聴く	72
① 音楽再生用アプリケーションを起動する	72
② Windows Media Player でファイルを再生する	73
3 オリジナル音楽 CD を作る	77
① Drag'n Drop CD + DVD を使うために	77
② Drag'n Drop CD + DVD を使う	79
③ Drag'n Drop CD + DVD を終了する	82
4 DVD-Video を観る	83
① InterVideo WinDVD を起動する	83
② InterVideo WinDVD を使う	85
5 デジタルカメラの写真を編集／整理する	89
① デジカメ Walker を使う	89
6 オリジナル DVD を作る	92
① 映像データの取り込み／編集から DVD に書き込むまでの流れ	93
② 映像データをパソコンに取り込む	94
③ 映像データを編集する (MotionDV STUDIO)	97
④ 編集した映像データを DVD に書き込む	105

3章 通信機能

115

- 1 LANへ接続する 116
 - ① LANへ接続する 116
 - ② ネットワーク設定に便利な機能 118
- 2 Bluetooth機能を使う 122
 - ① Bluetoothとは 122
 - ② Bluetooth機能を使って通信する 125
- 3 新着メールをLEDで確認する 132
 - ① 新着メールチェックの設定をする 132
 - ② 新着メールを確認する 135
- 4 内蔵モデムについて 136
 - ① 海外でインターネットに接続する 136

4章 周辺機器の接続

139

- 1 周辺機器について 140
 - ① 周辺機器を使う前に 141
- 2 フロッピーディスクドライブを接続する 142
 - ① フロッピーディスクドライブ 142
 - ② フロッピーディスク 143
 - ③ フロッピーディスクを使う前に 144
- 3 PCカードを接続する 148
 - ① PCカードを使う前に 148
 - ② PCカードを使う 149
- 4 USB対応機器を接続する 151
- 5 プリンタを接続する 153
 - ① プリンタの接続と設定 153
- 6 テレビを接続する 155
- 7 CRTディスプレイを接続する 160
- 8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 161
- 9 その他の機器を接続する 163
 - ① マイクロホン 163
 - ② ヘッドホン 164
 - ③ オーディオ機器 165

10 メモリを増設する	166
-------------------	-----

5章 バッテリ駆動 171

1 バッテリについて	172
① バッテリ充電量を確認する	173
② バッテリを充電する	175
③ バッテリパックを交換する	177
2 省電力の設定をする	179
① 省電力ユーティリティ	179
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る	186
① スタンバイ	187
② 休止状態	187
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	188

6章 アプリケーションについて 191

1 アプリケーションを使う前に	192
2 アプリケーションを追加（インストール）する	194
3 アプリケーションを削除（アンインストール）する	195

7章 システム環境の変更 197

1 システム環境の変更とは	198
2 BIOS セットアップを使う	199
① BIOS セットアップの操作	199
② パスワードの設定	201

付録 205

1 本製品の仕様	206
2 技術基準適合について	211
3 Bluetooth について	223
総合さくいん	229

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っていると便利な内容を示します。
 役立つ 操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポートへの参照の場合 … 〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

* 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

* 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

* 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム (OS) を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。

サイバーサポート
CyberSupport for TOSHIBA を示します。

ドライブ DVD マルチドライブを示します。

記載について

- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Bookshelf Basic は、次の書籍を基に制作されました。『新英和中辞典』第 6 版 © 研究社 1967, 1994, 1998、『新和英中辞典』第 4 版 © 研究社 1933, 1995, 1998、『新明解国語辞典』第 5 版 © 三省堂 1972, 1974, 1981, 1989, 1997
- ・ Intel、インテル、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ LaLaVoice、The 翻訳、The 翻訳インターネット、ConfigFree は (株) 東芝の商標または登録商標です。
- ・ 駅前探険倶楽部は株式会社駅前探険倶楽部の登録商標です。
- ・ ekitanExpress Online の商標は出願中です。

- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- ・ Drag'n Drop はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ 駅すばあととは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスW for TOSHIBAは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
©2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ MotionDV STUDIO は、松下電器産業株式会社の登録商標です。
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ ドリームネット、DreamNetは、ドリームネット株式会社の商標または登録商標です。
©Copyright 2003 DreamNet Corporation. All rights reserved.
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ @nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。
- ・ かるがるネット、かるがるネットのロゴは株式会社アイコムジャパンの商標または登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ ACアダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5℃ から 35℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・ 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・ 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・ 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・ パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝 PC 集中修理センタに依頼してください。パスワードの解除を東芝 PC 集中修理センタに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ ご使用の際は必ず付属のエンドユーザ使用許諾契約書および CD-ROM/DVD-ROM に関する注意事項をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。

 参照 ▶ 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

やいたいことを探そう！



Welcome!

探しかた

- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ XXXXX
↳ アプリケーション名 ↳ 参照ページまたは参照マニュアル名



通信を楽しむ

- ・ プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」 ⇒ 『まずはこれから』
- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ 『基本をマスター 2章』
- ・ ホームページを英語／日本語に翻訳したい
「The翻訳インターネット」 ⇒ 『サイバーサポート』
- ・ 海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」 ⇒ P.136
- ・ ネットワークの診断や切り替えをしたい
「ConfigFree」 ⇒ P.118
- ・ Bluetooth機能を使いたい
「Bluetooth 東芝ユーティリティ」 ⇒ P.125



メールを使う

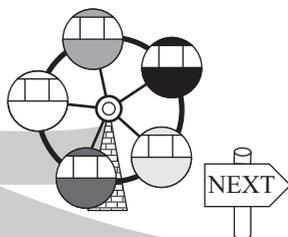
- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Outlook」 ⇒ 『サイバーサポート』
- ・ メールをしたい
「Microsoft Outlook」「Outlook Express」 ⇒ 『基本をマスター 3章』
- ・ 自動メールチェックしたい
「イージーボタンユーティリティ」 ⇒ P.132





音楽を楽しむ

- ・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
「Windows Media Player」⇒P.68
- ・オリジナル音楽CDを作りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒P.77



音声

- ・パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》



画像/映像を楽しむ

- ・デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」⇒P.89
- ・映像を取り込んで編集し、DVDを作りたい
「MotionDV STUDIO」 「DVDfunSTUDIO」 「DVD-MovieAlbum」 ⇒P.92
- ・DVDを楽しみたい
「InterVideo WinDVD」 ⇒P.83



文書 / 表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい
「Microsoft Word」⇒《サイバーサポート》
- ・表やグラフを作りたい
「Microsoft Excel」⇒《サイバーサポート》



便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい
「Acrobat Reader」⇒《サイバーサポート》
- ・地図で場所を調べたい
「フロアトラスW for TOSHIBA」⇒《サイバーサポート》
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
「駅すばあと」 「ekitan Express」⇒《サイバーサポート》
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい
「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》
- ・国語/英和/和英辞典を使いたい
「Microsoft Bookshelf Basic」⇒《サイバーサポート》





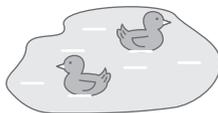
パソコンを守る

- ・ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security」⇒『困ったときは 2章』
- ・CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・ワンタッチボタンの設定を変えたい
「イージーボタンユーティリティ」⇒P.22
- ・バッテリー駆動のときの省電力設定をしたい
「東芝省電力ユーティリティ」⇒P.179
- ・アイコンやメニューを大きくしたい
「Liquid View」⇒《サイバーサポート》



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

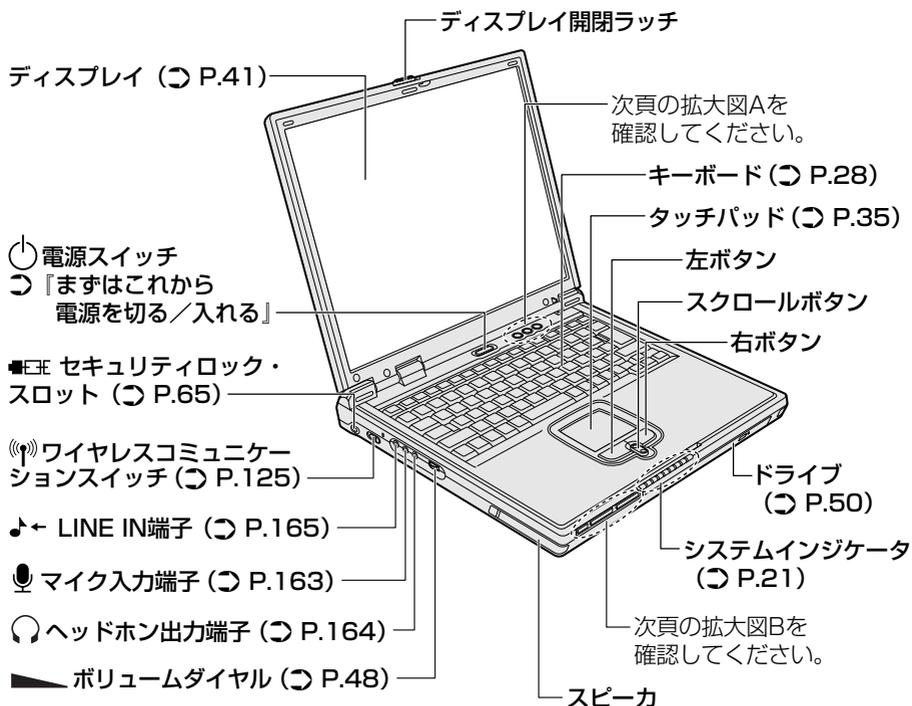
1	各部の名前	16
2	インジケータと各ボタン	21
3	キーボード	28
4	タッチパッド	35
5	ディスプレイ	41
6	ハードディスクドライブ	47
7	サウンド機能	48
8	ドライブ	50
9	SDメモ리카ード	61
10	セキュリティロック	65

1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

1 前面図



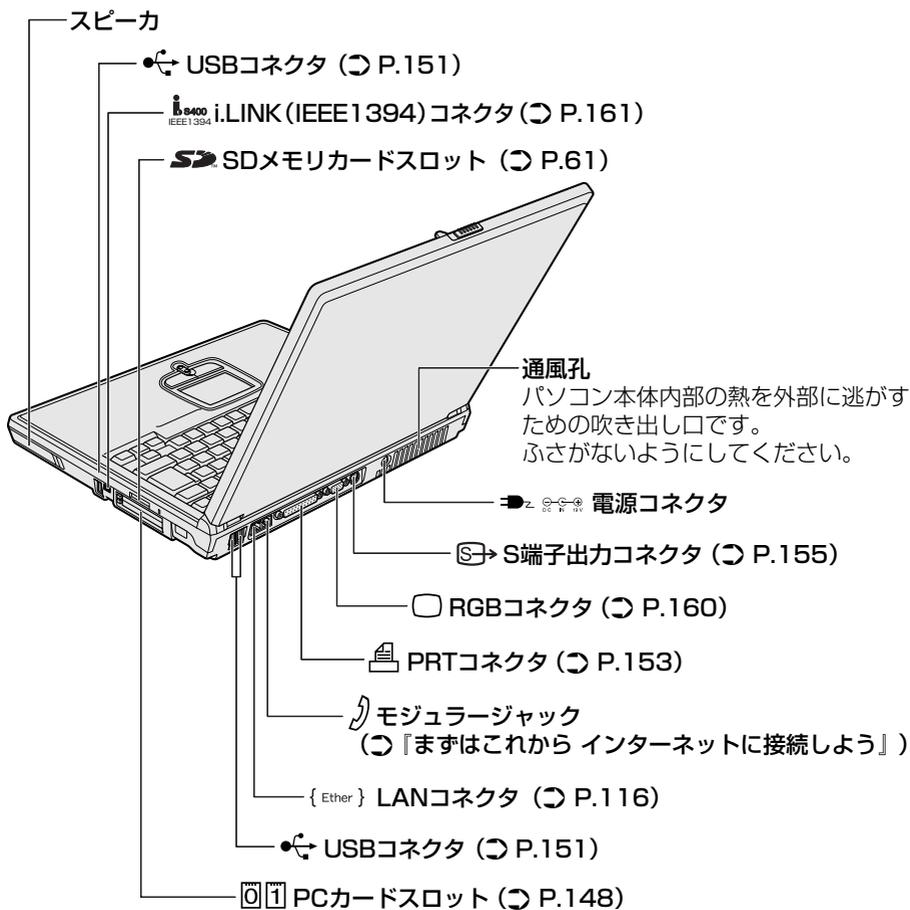
【拡大図 A】



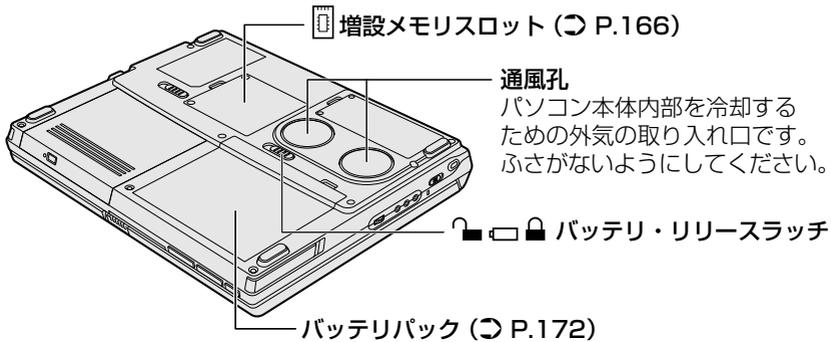
【拡大図 B】



2 背面図



3 裏面図



【電源コードとACアダプタの仕様について】

電源コードの仕様

本製品に同梱されている電源コードは、日本の安全規格・法令に適合しています。その他の地域で使用する場合は、当該地域の安全規格・法令に適合した電源コードを現地で購入のうえ、お使いください。

使用できる電圧 (AC) は 100V です。

必ず AC100V のコンセントで使用してください。

ACアダプタの仕様

本製品に同梱されている AC アダプタは、海外でも使用できます。

AC アダプタの仕様は次のとおりです。

入力：AC100V～240V、～1.5A、50/60Hz

出力：19V、4.74A

⚠ 警告

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用してください。本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や (+) (-) の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず『まずはこれから』に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタの DC 出力プラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

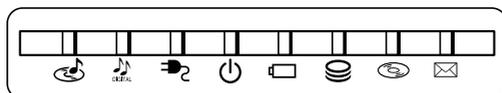
- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5 ~ 35℃、湿度 20 ~ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所 / 非常に高温または低温になる場所 / 急激な温度変化のある場所 (結露を防ぐため) / 強い磁気を帯びた場所 (スピーカなどの近く) / ホコリの多い場所 / 振動の激しい場所 / 薬品の充満している場所 / 薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取ってください。

2 インジケータと各ボタン

インジケータと、ワンタッチボタンやオーディオプレイボタンについて説明します。

1 インジケータ

インジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



【システムインジケータ】

	DC IN LED	電源コードの接続 参照▶『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態 参照▶『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリーの状態 参照▶ P.173
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている 参照▶ P.47
	CD-ROM LED	ドライブにアクセスしている 参照▶ P.50
	メール着信 LED	新着メールがあるときに点灯する 参照▶ P.132

【音楽に関するインジケータ】

	CD/DVD モード LED	CD/DVD モード 参照▶ P.25、70、71、84
	デジタルモード LED	デジタルモード 参照▶ P.25、72

2) ワンタッチボタン

本製品には、3つのワンタッチボタンがあります。

TV出力切替ボタンは、S端子出力コネクタに接続したテレビに表示を切り替えることができます。

 参照 ▶ テレビへの表示について「4章 6 テレビを接続する」

次の2つのボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「イージーボタンユーティリティ」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Outlook Express

必要に応じて添付のMicrosoft Outlookに設定を変更してください。

 参照 ▶ 詳細について「本項 1 ボタンの設定を変更する」

【パソコン本体の電源が入っていないとき】

電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

【スタンバイ状態／休止状態のとき】

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

1 ボタンの設定を変更する

インターネットボタンとメールボタンは、各ボタンを押して起動するアプリケーションを、自由に設定することができます。

ここでは、インターネットボタンに「ペイント」を設定する方法を例に説明します。

1 通知領域に [Easy Button] アイコン () が表示されていることを確認する

[Easy Button] アイコン () が表示されていない場合はイージーボタンユーティリティを起動してください。

 参照▶ イージーボタンユーティリティの起動方法「本節 ④-1 起動方法」

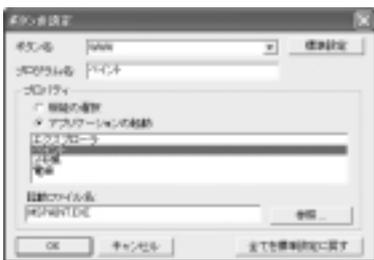
2 [Easy Button] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ボタンの設定] を選択する

[ボタンの設定] 画面が表示されます。

3 [ボタン名] で [WWW] を選択する

4 [アプリケーションの起動] をチェックし、リストボックスから [ペイント] をクリックする

[プログラム名] に「ペイント」と表示されます。



5 [OK] ボタンをクリックする

【 [ボタンの設定] 画面 】



[ボタン名]	設定するボタンを選択します。 [EMail] メールボタン [WWW] インターネットボタン
[プログラム名]	ボタンを押したときに画面に表示される文字を入力します。
[標準設定]	[ボタン名] で選択されているボタンの設定を購入時の状態に戻します。
[プロパティ] [機能の選択]	ボタンを押したときに実行する内容を設定します。 あらかじめ登録されている次の操作を選択できます。 [Task Switch] タスクバーに表示されているウィンドウを順番に切り替える [クローズ] 選択されているアプリケーションなどを閉じる [消音] 内蔵スピーカやヘッドホンの音量を消音にする
[アプリケーションの起動]	あらかじめ登録されているアプリケーションを起動できます。表示されているアプリケーションから選択します。
[起動ファイル名]* ¹	設定されているアプリケーション（ファイル名）が表示されます。
[参照]* ¹	クリックして表示される画面で、起動するアプリケーションを設定できます。
[全てを標準設定に戻す]	すべてのボタンの設定を購入時の状態に戻します。

* 1 [アプリケーションの起動] がチェックされている場合に表示されます。

3 オーディオプレイボタン

モード切替ボタンで、CD/DVDモード（）、デジタルモード（）にしているときに、オーディオプレイボタンで操作できます。



1 オーディオプレイボタンを使うには

オーディオプレイボタンは、イージーボタンユーティリティの起動中のみ使用できます。

購入時は、Windowsの起動と同時にイージーボタンユーティリティが起動するように設定されています。

1 通知領域に [Easy Button] アイコン（）が表示されていることを確認する

[Easy Button] アイコン（）が表示されていない場合はイージーボタンユーティリティを起動してください。

参照▶ イージーボタンユーティリティの起動方法「本節 ④-1 起動方法」

2 CD/DVDモード（）LEDが点灯するまで、モード切替ボタンを押す

オーディオプレイボタンが使用できるようになります。

もう一度モード切替ボタンを3秒以上押すと、LEDが消え、オーディオプレイボタンがロックされます。

モード切替ボタンを押すごとにモードが切り替わります。

モードの状態は、インジケータで確認できます。

- CD / DVDモード（）
CD / DVDを再生できます。

参照▶ 詳細について「2章 1 音楽CDを聴く」
「2章 4 DVD-Videoを観る」

- デジタルモード（）
音楽ファイルを再生できます。

参照▶ 詳細について「2章 2 音楽ファイルを聴く」

4 イージーボタンユーティリティ

イージーボタンユーティリティを起動すると、ワンタッチボタンやオーディオプレイボタンの設定ができます。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Easy Button] → [Easy Button] をクリックする

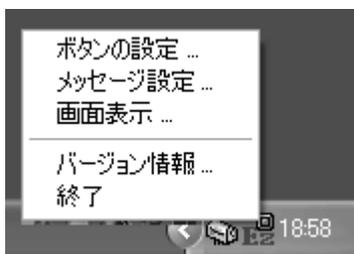
イージーボタンユーティリティが起動し、通知領域に [Easy Button] アイコン () と [メール] アイコン () が表示されます。



2 設定方法

キーボードからスタンバイや休止状態を実行する場合や、オーディオプレイボタンを押したときに表示される文字／記号について、設定できます。

- 1 通知領域の [Easy Button] () アイコンを右クリックする
- 2 表示されたメニューから目的の項目を選択する



【 ボタンの設定 】

[ボタンの設定] を選択して表示される画面では、ワンタッチボタンを押したときに起動するアプリケーションなどを設定できます。

参照 → 詳細について「本節 ②-1 ボタンの設定を変更する」

【メッセージ設定】

イージーボタンユーティリティの起動中は、次のキー操作でスタンバイや休止状態を実行できます。

- **Fn** + **F3** キー : スタンバイ
- **Fn** + **F4** キー : 休止状態

[メッセージ設定] を選択して表示される画面では、キーを押してスタンバイや休止状態を実行する前に、確認のメッセージを表示するかどうかを設定できます。チェックをはずすと、キーを押したときにメッセージが表示されません。

【画面表示】

[画面表示] を選択して表示される画面では、ワンタッチボタンやオーディオプレイボタンを押したときに画面に文字などを表示するかどうかを設定できます。また、表示する場合、その表示時間、文字のフォント、色などを設定できます。

【バージョン情報】

イージーボタンユーティリティのバージョンが表示されます。

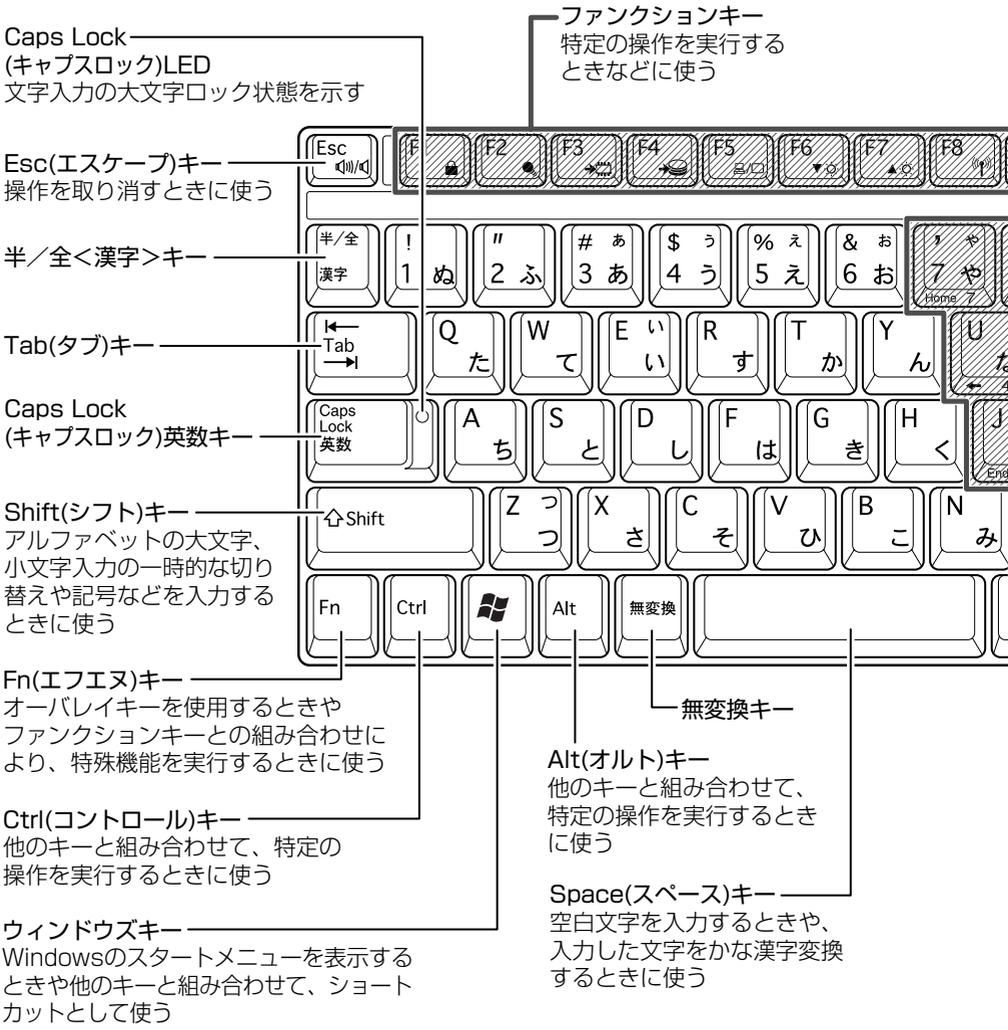
【終了】

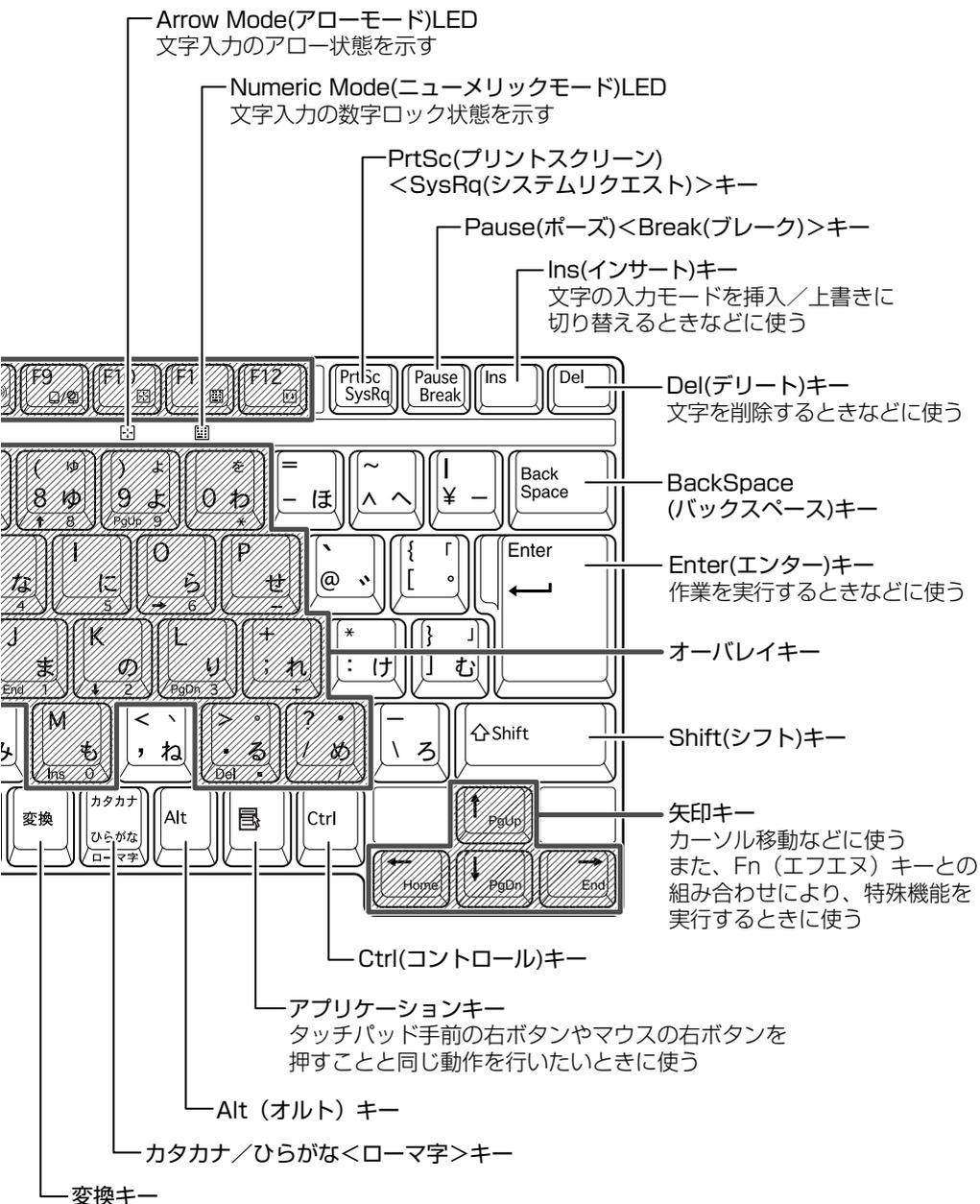
イージーボタンユーティリティを終了します。

3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1) キーボード図





2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。

【キーシフトインジケータ】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力 できます。
Arrow Mode LED	(Fn) + (F10)	アロー状態 オーバーレイキーで、キーの前面 左側に印刷されたカーソル制御 ができます。
Numeric Mode LED	(Fn) + (F11)	数字ロック状態 オーバーレイキーで、キーの前面 右側に印刷された数字などの文 字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう 1 度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn)+(Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度(Fn)+(Esc)キーを押します。
(Fn)+(F1) 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブで、[パスワードによる保護]または[再開時によろこそ画面に戻る]をチェック）しておく、セキュリティを強化できます。解除するには、次の操作を行ってください。 ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作する ② ユーザが複数の場合はユーザ名をクリックする ③ パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す パスワードによる保護を設定していない場合は、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると解除できます。
(Fn)+(F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn)+(F2)キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F2)キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。(F2)キーを離れた位置の設定に変更できます。
(Fn)+(F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	イーザーボタンユーティリティを起動している場合、(Fn)+(F3)キーを押すと、スタンバイ機能が実行されます。 参照▶ イーザーボタンユーティリティについて 「本章 2-4 イーザーボタンユーティリティ」

キー	内容
(Fn)+(F4) 〈休止状態の実行〉	イーザーボタンユーティリティを起動している場合、(Fn)+(F4)キーを押すと、休止状態が実行されます。 参照 ▶ イーザーボタンユーティリティについて 「本章 2-4 イーザーボタンユーティリティ」
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照 ▶ 「4章 6 テレビを接続する」
(Fn)+(F6) 〈ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F7) 〈ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F8) 〈無線通信機能の切り替え〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドしている場合、(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。 *本製品ではサポートしていません。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッドオン/オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度、(Fn)+(F9)キーを押します。 参照 ▶ 「本章 4-4 タッチパッドを無効/有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます (アロー状態)。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます (数字ロック状態)。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション (Microsoft Excel など) によっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。

キー	内容
(Fn) + (↑) 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (↑) キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn) + (↓) 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (↓) キーを押すと、次のページに移動できます。
(Fn) + (←) 〈Home (ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (←) キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
(Fn) + (→) 〈End (エンド)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 (→) キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

【**(Windows)**キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
(Windows) + (R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
(Windows) + (M)	すべての画面を最小化する
(Shift) + (Windows) + (M)	最小化されたすべての画面を元に戻す
(Windows) + (F1)	『ヘルプとサポート』を起動する
(Windows) + (E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
(Windows) + (F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl) + (Windows) + (F)	他のコンピュータを検索する
(Windows) + (Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
(Windows) + (Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt) + (PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または東芝 PC 集中修理センタに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または東芝 PC 集中修理センタに点検を依頼してください。

4 タッチパッド

タッチパッドを使いやすく設定できます。

1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、「マウスのプロパティ」で行います。

1 「マウスのプロパティ」の設定方法

- 1 通知領域の [タッチパッド On/Off] アイコン () をダブルクリックする

画面が表示されます。



- 2 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、以降の説明を参照してください。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2) タッピング機能

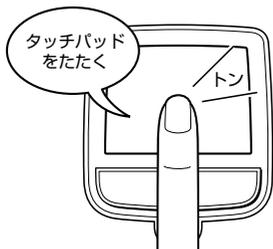
タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

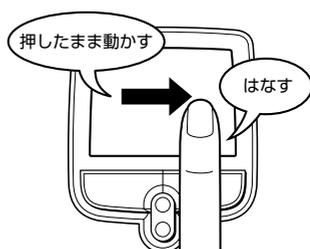
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[タッピング] タブでできます。[タッピング] タブで設定できる機能は、次のようになっています。



タッピング	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、タッピング機能が使用できます。続けてタッピングするときの速度は、[タッピング速度]のスライダーバーを動かして調節します。
ドラッグ	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) とドラッグロックを設定できます。[ドラッグロック] をチェックすると、タッピングでドラッグした場合、指を離してもドラッグ状態を保てます。[自動解除] を選択すると一定時間経ったらドラッグ状態を解除し、[タッピング又はクリックで解除] を選択するとタッピングまたはクリックでドラッグ状態を解除します。自動解除の時間は、スライダーバーを動かして調節できます。
キー入力時タップしない	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、キーボードから文字を入力している間はタッピング機能が効かなくなります。入力中に意図しない場所をクリックしてしまうのを防ぐことができます。

3 タッピング機能を便利に使う

[ジェスチャー] タブで設定します。

タッチパッドの右上、左上をタッピングしたときの動作や、スクロール機能を設定できます。



左コーナーの設定 右コーナーの設定	タッチパッドの左上、右上をタッピングしたときの動作を設定できます。
ブラウザ補助機能を使う	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、タッチパッドの上端に指を合わせて左右に動かしたときに、ブラウザの「進む」「戻る」の動作を行うことができます。
スクロール機能を使う	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、タッチパッドの右端、下端に指を合わせて上下または左右に動かしたときに、スクロール機能を使用できます。

役立つ 操作集

ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡を設定できます。



3 その他の設定

[その他] タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。



【サウンドフィードバック】

[使用する] をチェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。

[設定] ボタンをクリックすると、[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ] 画面が表示されます。

[サウンド] タブの [プログラムイベント] で「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行ってください。

【トレイアイコン】

[タスクバーにアイコンを表示する] をチェックすると、通知領域に [Touch Pad] アイコン () が表示されます。

購入時に表示される [タッチパッド On/Off] アイコンと同等の機能を持つので、通常は使用しません。

【IMEキャプチャー】

[使用する] をチェックすると、タッチパッドをIMEパッドの手書き入力エリアとして使用できます。

使用中は、ポインタが羽に変わります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

【 イージーキャプチャーの設定 】

イージーキャプチャー機能を使うと、ペイントを起動せずに簡単な絵を描いて、起動中のアプリケーションに貼り付けることができます。

イージーキャプチャー機能を使用する場合は、あらかじめ [ジェスチャー] タブの [左コーナーの設定] または [右コーナーの設定] で「イージーキャプチャー」を指定しておきます。

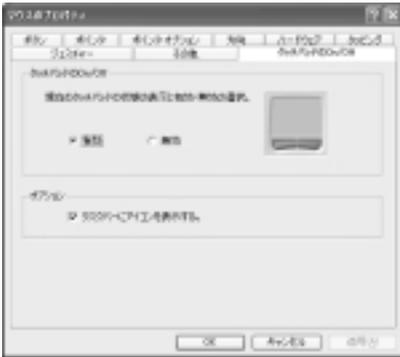
【 イージーランチャーの設定 】

イージーランチャー機能とは、ランチャー画面のボタンをクリックするだけで、「最小化」「閉じる」などの操作を実行したり、登録したアプリケーションやファイルを起動できる機能です。

イージーランチャー機能を使用する場合は、あらかじめ [ジェスチャー] タブの [左コーナーの設定] または [右コーナーの設定] で「イージーランチャー」を指定しておきます。

4) タッチパッドを無効／有効にするには

[タッチパッドの On/Off] タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。また、通知領域にアイコンを表示するかどうかを設定できます。



【 タッチパッドの On/Off 】

[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

【オプション】

[タスクバーにアイコンを表示する。] をチェックすると、通知領域に [タッチパッド On/Off] アイコン () が表示されます。購入時は、チェックされています。[タッチパッド On/Off] アイコン () を右クリックして表示されるメニューから、タッチパッドの無効/有効を設定できます。

タッチパッドの有効/無効は、(Fn)+(F9)キーでも切り替えることができます。(Fn)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると正常に操作できるようになります。

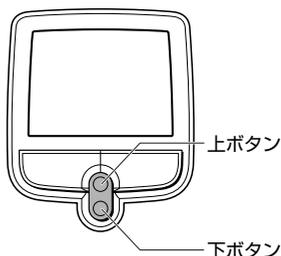
役立つ 操作集

スクロール

購入時の状態では、スクロールボタンの上ボタンを押すと上スクロールし、下ボタンを押すと下スクロールします。

また、[マウスのプロパティ] の [ボタン] タブでボタンに [オートスクロール] を設定すると、オートスクロールを使用できます。オートスクロールの設定をしている場合、ボタンを押すと、ポインタが  や  に変わります。スクロールしたい方向にポインタを少し動かすと、ポインタの形がスクロールしたい方向の矢印に変わり、自動的に画面がスクロールされます。もう1度ボタンを押すと、通常の状態に戻ります。

アプリケーションによっては対応していない場合もあります。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

5 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1400 × 1050 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。テレビと同じようにブラウン管を発光させて表示する、CRT ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 → CRT ディスプレイの接続について
「4 章 7 CRT ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1) ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

内部液晶ディスプレイでは設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 × 1536 ドット *1	1,677 万色
1920 × 1440 ドット *1	1,677 万色
1600 × 1200 ドット *1	1,677 万色
1400 × 1050 ドット	1,677 万色
1280 × 1024 ドット *1	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

*1 仮想スクリーン表示になります。

メモ

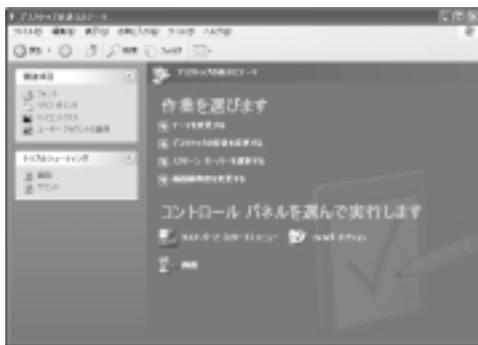
1,677 万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1 ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [テーマ] タブの [テーマ] で  ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する



画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。

- 3 [OK] ボタンをクリックする

壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windowsに用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

1 【デスクトップの表示とテーマ】画面で【デスクトップの背景を変更する】をクリックする

【画面のプロパティ】画面が表示されます。

2 【デスクトップ】タブの【背景】で、目的の画像を選択する



パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

画面は【草原】を選択する場合の表示例です。

- 指定できる画像ファイル
bmp、gif、jpeg、html ファイルなどが使用できます。
- 画像の位置を指定する
画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。
【表示位置】で【中央に表示】、【並べて表示】、【拡大して表示】から選択します。

3 【OK】ボタンをクリックする

スクリーンセーバを使う

好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

1 【デスクトップの表示とテーマ】画面で【スクリーンセーバーを選択する】をクリックする

【画面のプロパティ】画面が表示されます。

2 [スクリーンセーバー] タブの [スクリーンセーバー] で ▼ ボタンをクリックし、目的のスクリーンセーバを選択する



画面は [Windows XP] を選択する場合の表示例です。

スクリーンセーバによっては、パソコンの絵の中にプレビューが表示されます。[プレビュー] ボタンをクリックすると、画面全体にスクリーンセーバのプレビューが表示されます。プレビューを中止したい場合は、タッチパッドを操作してください。

- [待ち時間] の時間 (分数) を設定する
例えば、[5] に設定すると、パソコンの電源を入れた状態で5分間、タッチパッドを操作せず、キーボードから入力を行わなかったとき、スクリーンセーバが表示されます。
- [パスワードによる保護]
チェックすると、スクリーンセーバ解除時に、パスワードの入力画面を表示します。

3 [OK] ボタンをクリックする

動作中のスクリーンセーバを解除するには、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドの操作を行ってください。

[パスワードの保護] をチェックしている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。Windows のログオンパスワードを入力してください。

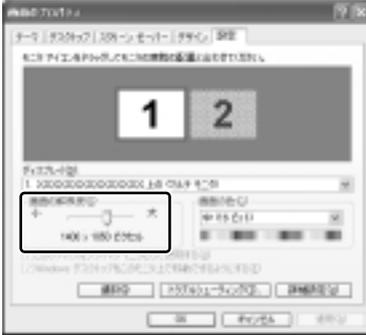
解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面解像度を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



3 [OK] ボタンをクリックする

ウィンドウの色を変える

ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [デザイン] タブの [配色] で、 ボタンをクリックし、配色を選択する



プレビューが表示されます。
画面は、[シルバー] を選択する場合の表示例です。

3 [OK] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または東芝 PC 集中修理センタに相談してください。有償にて交換いたします。

6 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

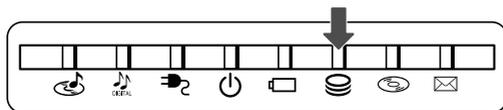
PC カードタイプ（TYPE II または TYPE III）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD/DVD などハードディスク以外の記憶メディアに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD/DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気プレスレットなど強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

1 ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。



PC カードタイプや i.LINK（IEEE1394）対応機器、USB 対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

7 サウンド機能

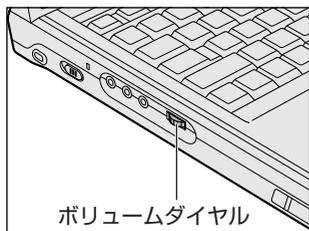
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、またはWindowsの「ボリュームコントロール」で調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[ボリュームコントロール] 画面が表示されます。

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する
つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

「ボリュームコントロール」の各項目では次の音量が調整できます。

ボリュームコントロール	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (Windows Media Player の場合)、DVD-ROM、DVD-Video など
CD プレーヤー	音楽 CD (Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

接続するマイクによって録音レベルが異なります。

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[ボリュームコントロール] 画面が表示されます。
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク]：外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に2つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声が「ボリュームコントロール」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

8 ドライブ

本製品には、DVD マルチドライブが 1 台内蔵されています。DVD マルチドライブは DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。

CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

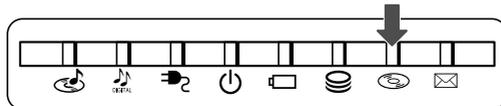
お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。

ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、CD-ROM

🌀 LED が点灯します。



1 使用できるメディアと対応するアプリケーション

本製品のドライブで使用できるメディアと、本製品に付属のアプリケーションで書き込みできるメディアは次のとおりです。

【本製品のドライブで使用できるメディア】

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○	○	○	×	×
書き込み回数	1回	繰り返し 書換可能*1	1回	繰り返し 書換可能*1	繰り返し 書換可能*1	×	×

* 1：実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

【アプリケーションとメディア】

「Drag'n Drop CD+DVD」「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」は本製品に付属のアプリケーションです。

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM*3
Drag'n Drop CD+DVD	○	○	○*2	○*2	×
DVDfunSTUDIO (DVD-Video*1)	×	×	○	○	×
DVD-MovieAlbum (DVD-VR*1)	×	×	×	×	○

* 1：映像を書き込むときの記録形式です。表に記載されている形式でのみ書き込みできます。

DVD-Video 形式に準拠した映像は、他の機器との互換性に優れており、DVD-RW、DVD-R に対応した DVD プレーヤー、パソコン、ゲーム機など色々な環境で再生できます（一部の機器では再生できない場合があります）。DVD-VR 形式に準拠した映像は、豊富な編集機能を使ってオリジナル DVD を作成することができます。再生や編集には、DVD-RAM 機能が搭載され、DVD-VR 形式に対応した DVD レコーダなどが必要になります（一部の機器では再生 / 編集できない場合があります）。

* 2 : DVD-Video、DVD-Audio の作成や音楽情報の書き込みはできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。

* 3 : パソコンで作成した文書データなどのファイルを DVD-RAM に書き込む場合は、[マイコンピュータ] で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーしてください。

参照 ▶ ファイルやフォルダのコピー

『基本をマスター 1 章 5-② ファイルやフォルダをコピーする』

なお、新品の DVD-RAM は、使用前にフォーマットが必要です。

参照 ▶ フォーマット「本節 ④ DVD-RAM を使うときは」

2) 使用できる CD

読み出しできる CD は、次の種類です。

- 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ
記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は次の種類です。

- CD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。CD-R の書き込み速度は最大 16 倍速です。16 倍速で書き込むためには 16 倍速の書き込みに対応した CD-R メディアを使用してください。
- CD-RW
CD-RW の書き込み速度は使用するメディアによって異なります。マルチスピード CD-RW メディアの場合、最大 4 倍速が使用できます。High-Speed 対応メディアを使用した場合は最大 8 倍速です。なお、Ultra Speed CD-RW 対応メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

CD-RW (マルチスピード、High-Speed)

：三菱化学 (株)、(株) リコー

CD-R : 太陽誘電 (株)、三井化学 (株)、三菱化学 (株)、(株) リコー、
日立マクセル (株)

これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照▶ エラーチェック《サイバーサポート》

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3 使用できる DVD

読み出しできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM
- DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD-RAM

書き込みできる DVD は次の種類です。

- DVD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RAM
DVD-RAM は、DVD-RAM Ver2.0 または 2.1 規格に準拠したメディアを使用してください。

DVD-RAM に書き込むにはドライバのインストールが必要です。

 **参照** ドライバのインストール

「本節 4-1 ドライバとフォーマットユーティリティのインストール」

【 DVD-RAM の種類 】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAM の種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ (取り出し不可)	×
カートリッジタイプ (取り出し可能)*2	○

* 1 一部の家庭用 DVD ビデオレコーダでは再生できない場合があります。

* 2 2.6GB、5.2GB のディスクは書き込みできません。

お願い DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rについて

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込む際には、次のメーカーのDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用することを推奨します。

DVD-RAM : 松下電器産業 (株)

DVD-RW : 日本ビクター (株)、TDK (株)

DVD-R : 松下電器産業 (株)、太陽誘電 (株)、パイオニア (株)

これらのメーカー以外のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- DVD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RWに書き込んだデータの一部を削除することはできません。書き込まれたデータの変更は、まずすべてのデータを消去し、改めて必要なデータだけを再書き込みする必要があります。
- DVD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、必ずしもメディアに記載された容量分のデータを書き込むことはできません。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 ▶ エラーチェック《サイバーサポート》

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rにデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

メモ

- 市販のDVD-RW、DVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

4 DVD-RAM を使うときは

ここでは、DVD-RAMに書き込みをする前に必要な操作について説明します。

1 ドライバとフォーマットユーティリティのインストール

「DVD-RAM Driver Software」をインストールすると、次のことが行えるようになります。

- UDF2.0形式でフォーマットされたDVD-RAMの読み出しと書き込み
- UDF2.0／UDF1.5形式でのDVD-RAMのフォーマット
- DVD-RAMのライトプロテクトの設定／解除

初めてDVD-RAMに書き込みをするとき、または初めてDVD-RAMをフォーマットするとき、必ずインストールしてください。

インストールは、コンピュータの管理者アカウントで行ってください。

1 「DVD-RAM Driver Software」と記載されているCDをセットする

 参照 CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD／DVD』

2 画面の指示に従って「DVD-RAM Driver Software」をインストールする

3 [InstallShield ウィザードの完了] 画面で [はい、今すぐコンピュータを再起動します。] が選択されていることを確認し、[完了] ボタンをクリックする

パソコンが再起動します。

2 フォーマットとは

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細はPDFマニュアルを確認してください。

参照 → 「本項 3-PDF マニュアルの起動方法」

お願い

フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

購入時に選択できるファイルシステムは「FAT32」のみです。「DVD-RAM Driver Software」をインストールすると「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」が選択できるようになります。

【UDF2.0】

DVD-VR形式に対応したファイルシステムです。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性があります。

【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP / 2000*¹がインストールされたパソコン*²でもデータを読み出すことができます。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

*1 Windows 2000 ... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System 日本語版

*2 DVD-RAMドライブが搭載されていないパソコンでDVD-RAMを読み出すためには、DVD-RAMの読み出しに対応したDVDドライブが搭載されている必要があります。

【 FAT32 】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP / Me *1 / 98 *2 がインストールされたパソコン*3 でもデータを読み出すことができます。家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

- *1 Windows Me Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System 日本語版
- *2 Windows 98..... Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System 日本語版
- *3 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

メモ

「DVD-MovieAlbum」で映像データを書き込む際には、DVD-VR 形式で書き込まれるため、「UDF2.0」の DVD-RAM を使用します。

3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。「DVD-RAM Driver Software」をインストールしてから次の操作を行ってください。

1 フォーマットする DVD-RAM をセットする

▶ DVD-RAM のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

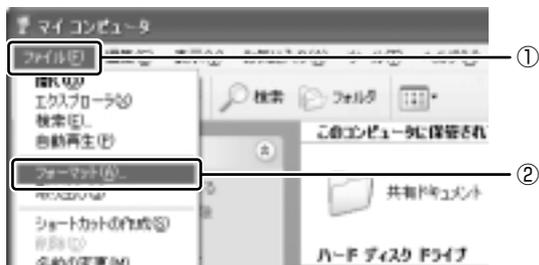
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

3 [DVD-RAM ドライブ (E:)] をクリックする

[DVD-RAM ドライブ (E:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[DVDForm - E ドライブ] 画面が表示されます。

5 【ドライブ】 と 【フォーマット種別】 を選択する

映像を書き込み、家庭用 DVD ビデオレコーダで再生するための DVD-RAM を作成する場合は、【ユニバーサルディスクフォーマット (UDF2.0)】 を選択してください。

パソコンで使用するための DVD-RAM を作成する場合は、【ユニバーサルディスクフォーマット (UDF1.5)】 を選択してください。

6 ボリュームラベル名を入力する

UDF 形式を選択した場合は、必ず入力してください。

7 【開始】 ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、【物理フォーマットを実行する】 をチェックしてから、【開始】 ボタンをクリックしてください。

物理フォーマットを行うと、DVD-RAM 上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います（通常は行う必要はありません）。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、【はい】 ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

9 メッセージの内容を確認し、【OK】 ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他の DVD-RAM も続けてフォーマットする場合は、DVD-RAM を入れ替えて、手順 5 から実行します。

フォーマットを終了する場合は、【DVDForm - E ドライブ】 画面で【閉じる】 ボタンをクリックしてください。

PDF マニュアルの起動方法

1 【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【DVD-RAM】 → 【DVD-RAM ドライバー】 → 【DVD-RAM ディスクの使い方】 をクリックする

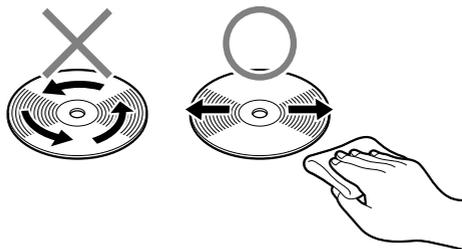
「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



9 SD メモリカード

SD メモリカードを SD メモリカードスロットに差し込んで、パソコンと SD メモリカード間でデータの読み出しや書き込みを行うことができます。

1 SD メモリカードについて

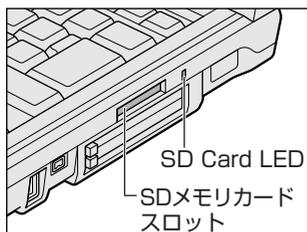
SD メモリカードについて説明します。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- 著作権保護技術を使用して SD メモリカードにデータを書き込むアプリケーションはサポートしていません。また、データが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生などを行うことはできません。
- 本製品では SDIO 規格をサポートしていないため、SD メモリカード以外の SD カードを SD カードスロットに挿入しないでください。
- 本製品の SD メモリカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。
- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがってすべての SD メモリカードの動作は保証できません。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

1 SDメモリカードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



2) SD メモリカードのセットと取り出し

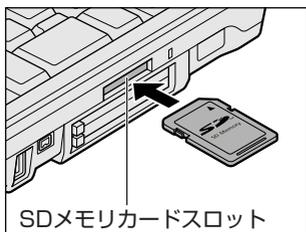
SD メモリカードをSD メモリカードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

お願い

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD メモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。
パソコン本体がSD メモリカードを認識しない場合には、いったんSD メモリカードを取り出し、もう1度セットしてください。

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
- ② [リムーバブルディスク (D:)] (標準値) を右クリックする
- ③ [取り出し] をクリックする
- ④ SD Card LED が消灯していることを確認する

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモ리카ードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

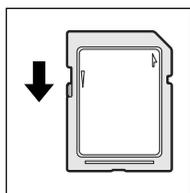
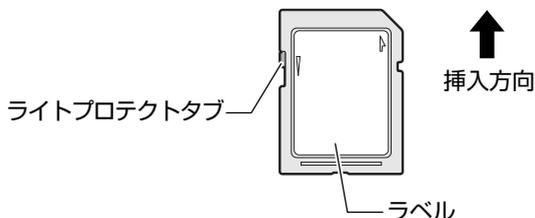
2 [リムーバブルディスク (D:)] (標準値) をダブルクリックする

[リムーバブルディスク (D:)] (標準値) 画面が開き、セットしたSDメモ리카ードの内容が表示されます。

3 SDメモ리카ードを使う前に

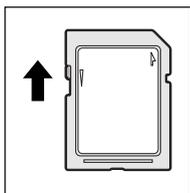
1 ライトプロテクトタブ

SDメモ리카ードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモ리카ードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモ리카ードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモ리카ードを使えるようにすることです。

新品のSDメモ리카ードは、SDメモ리카ードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、SDメモ리카ードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

フォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモ리카ードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモ리카ードに保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用したSDメモ리카ードを再フォーマットする場合は注意してください。

SDメモ리카ードの取り扱い

SDメモ리카ードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SDメモ리카ードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
SDメモ리카ードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SDメモ리카ードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SDメモ리카ードに付属のケースに入れてください。
- SDメモ리카ードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

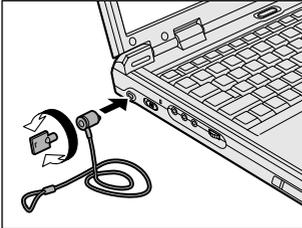
10 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



2章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それをCDに書き込んでオリジナルを作成する。写真やDVD-Videoの映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

1	音楽CDを聴く	68
2	音楽ファイルを聴く	72
3	オリジナル音楽CDを作る	77
4	DVD-Videoを観る	83
5	デジタルカメラの写真を編集／整理する	89
6	オリジナルDVDを作る	92

1 音楽 CD を聴く

本製品では Windows を起動している状態でも、また Windows を起動していない状態でも音楽 CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

Windows を起動して音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- Windows ウィンドウズ メディア メディア プレーヤ プレーヤ

初めて起動したとき

初めて起動したときは、[Windows Media Player 9 シリーズへようこそ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってプライバシーオプションとインストールオプションを設定してください。

インストールオプションの設定では、[ファイルの種類] タブで [DVD ビデオ] のチェックをはずしてください。



DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」の使用を推奨します。

1 再生方法

1 Windows が起動している状態で、音楽CDをセットする

[Audio CD (E:)] 画面が表示されます。

購入時は、音楽CDを再生するアプリケーションとして「Windows Media Player」が選択されています。

参照▶ CDのセットについて『基本をマスター 1章 1-③ CD/DVD』

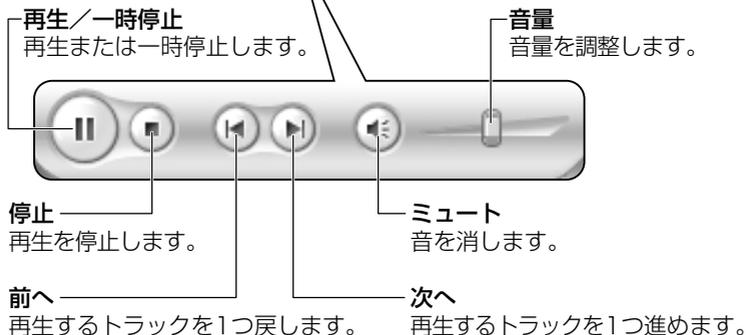
[Audio CD (E:)] 画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] でドライブのアイコンをダブルクリックしてください。「Windows Media Player」が起動します。手順3へ進んでください。

2 [オーディオCDを再生します Windows Media Player 使用] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

「Windows Media Player」が起動します。

3 画面のボタンで操作する

「Windows Media Player」の各操作ボタンの役割は次のとおりです。



オーディオプレイボタンで起動する

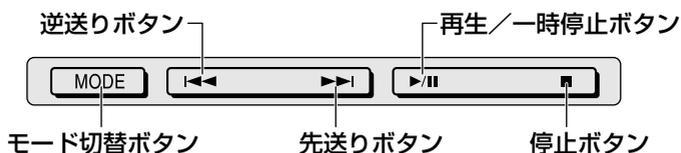
オーディオプレイボタンを使ってアプリケーションを起動することができます。

- 1 [Easy Button] アイコン () が通知領域に表示され、CD/DVDモード  LED が点灯していることを確認する

LED が点灯していない場合は、点灯するまでモード切替ボタンを押してください。

参照 詳細について「1 章 2-③-1 オーディオプレイボタンを使うには」

- 2 再生/一時停止ボタンを押す



「Windows Media Player」が起動します。

オーディオプレイボタンでも、再生や停止などの操作ができます。

オーディオプレイボタンで操作すると、押したボタンに対応して、画面右下に 、、、 などが表示されます。

参照 イージーボタンユーティリティの設定
「1 章 2-④ イージーボタンユーティリティ」

ヘルプの起動方法

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [トピックの検索] をクリックする

参照 「Windows Media Player」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

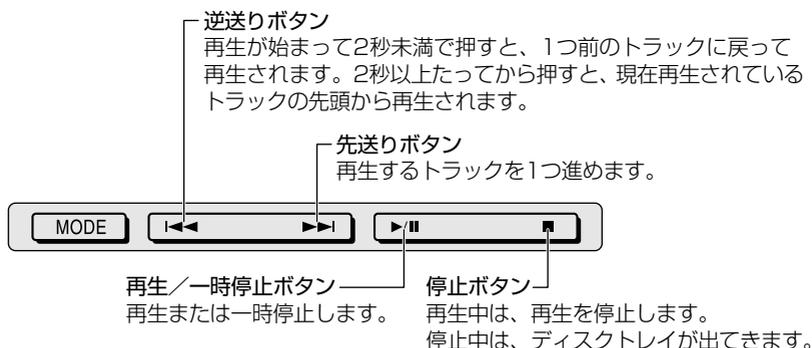
2 Windows を起動しないで音楽CDを聴く

オーディオプレイボタンを使うと、Windows を起動しないで音楽CDを再生できます。

1 操作方法

ドライブの電源を入れてから5分以上操作がない場合は、自動的にドライブの電源が切れ、CD/DVDモード  LEDが消灯します。その場合は、もう1度モード切り替えボタンを押して電源を入れ直してください。

- 1 CD/DVDモード  LEDが点灯するまでモード切替ボタンを押す
ドライブの電源が入ります。Power  LEDは点灯しません。
- 2 停止ボタンを押す
しばらくしてディスクトレイが出てきます。
- 3 音楽CDをセットする
- 4 オーディオプレイボタンで操作する



5 終了する場合は、音楽CDを取り出す

停止ボタンを押して再生を停止した後、もう1度停止ボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

持ち運ぶときは、モード切替ボタンを3秒以上押してロック状態にしてください。オーディオプレイボタンで操作できなくなります（ロック状態）。もう1度3秒以上押すと、ロック状態が解除されます。

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav)
- MIDI形式 (.mid)
- MP3形式 (.mp3) など

1 音楽再生用アプリケーションを起動する

オーディオプレイボタンを使ってアプリケーションを起動することができます。

1 起動方法

- 1 [Easy Button] アイコン () が通知領域に表示され、CD/DVDモード  LED が点灯していることを確認する

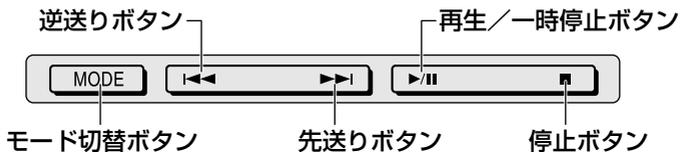
LED が点灯していない場合は、点灯するまでモード切替ボタンを押してください。

 詳細について「1章 2-③-1 オーディオプレイボタンを使うには」

- 2 モード切替ボタンを押す

デジタルモード  LED が表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。

- 3 再生/一時停止ボタンを押す



「Windows Media Player」が起動します。

Windows が起動していないときも、再生/一時停止ボタンを押してしばらくすると Windows が起動し、その後「Windows Media Player」が起動します。

 Windows Media Player の操作について

「本章 1-① Windows を起動して音楽 CD を聴く」

2 Windows Media Playerでファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 メニューバーから【ファイル】→【開く】をクリックする
- 2 聴きたい曲のファイルを選択し①、【開く】ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

参照▶ 関連情報は「本章 1-① Windows を起動して音楽 CD を聴く」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

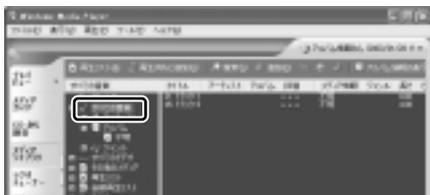
- 音楽 CD のトラックをコピーする場合
 - ① 音楽 CD をセットする
 - ② [CD から録音] ボタンをクリックする
 - ③ コピーするトラックをチェックする
 - ④ [音楽の録音] ボタンをクリックする
 - ⑤ [録音オプション (1 / 2)] 画面でオプションを選択する
 - ⑥ [CD から録音される音楽が、...] の項目を読み、チェックする
 - ⑦ [次へ] ボタンをクリックする
 - ⑧ [録音オプション (2 / 2)] 画面でオプションを選択する
 - ⑨ [完了] ボタンをクリックする
- ファイルを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルまたは再生リストを追加] をクリックする
 - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URL を追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面で URL またはパスを指定する

2 [メディアライブラリ] ボタンをクリックする



メディアライブラリを初めて使うときに限り、メッセージが表示されます。
[いいえ] ボタンをクリックしてください。

3 [すべての音楽] をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [再生リスト] ボタンをクリックし①、表示されたメニューから [新しい再生リスト] をクリックする②



5 [メディア ライブラリの次の項目を表示] で再生リストに追加したいファイルのカテゴリを選択し①、表示されたカテゴリから目的の項目を選択する②



ファイルの一覧が表示されます。

6 再生リストに追加するファイルをクリックする



クリックしたファイルが、[再生リスト名] の下に表示されます。

7 [再生リスト名] に再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは例として再生リスト名を「新規リスト」とします。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (⏮) をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

ドラッグアンドロップ シーディープラスディーブイディー
「Drag'n Drop CD + DVD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』を参照してください。

「Drag'n Drop CD + DVD」は、本製品にはインストールされていません。インストールしてから使用してください。

➡ 「Drag'n Drop CD + DVD」のインストールについて
「本節 ①-1 インストール方法」

1 Drag'n Drop CD + DVD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD + DVD」を使用してください。

本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外のCD-RW、CD-R ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

➡ CD-RW、CD-R について 「1 章 8-② 使用できる CD」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

➡ 省電力機能について 「5 章 2 省電力の設定をする」

「5 章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

-
- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ スクリーンセーバ
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化するユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
 - SD メモリカード、フロッピーディスク、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
 - LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
 - 「Drag'n Drop CD + DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
 - 本製品に付属している「Drag'n Drop CD + DVD」を使用して DVD-Video、DVD-Audio を作成することはできません。
 - 「Drag'n Drop CD + DVD」の [Music BOX] () を使用して、DVD-RW、DVD-R に音楽情報を書き込むことはできません。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、i.LINK 対応機器、SD メモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオプレイボタンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

「Drag'n Drop CD + DVD」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

1 インストール方法

1 添付のCDをセットする

[設定言語の選択] 画面が表示されます。

参照 → CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

2 [日本語] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

[Drag'n Drop CD + DVD セットアップ] 画面が表示されます。

3 画面の指示に従って「Drag'n Drop CD + DVD」をインストールする

4 再起動する

2 Drag'n Drop CD + DVD を使う

インストールされた「Drag'n Drop CD + DVD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD + DVDの基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



[Music BOX]

音楽CDを作成するときに使用します。
音楽ファイルをこのボックスにドラッグアンドドロップすると
[Audio CD Layout Window] が開き、そこで好きな曲を選択すると自分だけの音楽CDを作成できます。

[DISC Backup BOX]

著作権上コピーが認められているCDやDVDのバックアップを作成するときに使用します。

[Data BOX]

フォルダやファイルをドラッグアンドドロップしてデータCDやDVDを作成するときに使用します。

▶ 詳細について『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』

CD に保存されている WMA 方式または WAVE 方式の音楽ファイルを使用して音楽 CD を作成する場合は、CD から直接 [Music BOX] にドラッグできません。1 度ハードディスクに保存してから音楽 CD を作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽 CD をドライブにセットする

[Audio CD (E:)] 画面が表示された場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

3 [Audio CD (E:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽 CD トラック情報] には曲情報が表示されています。

4 [ブランク CD サイズ] を指定する

5 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。



6 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。完了すると、[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



曲順を入れ替えたい場合は、トラックを選択して移動したい位置へドラッグアンドドロップします。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽CDからも取り込みたい場合は、ここで音楽CDを入れ替え、手順5、6を繰り返します。

7 音楽CDを取り出し、未使用のCD-Rをセットする

8 [書き込み] ボタン () をクリックする

CDへの書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD + DVD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD Help] をクリックする
「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプが表示されます。

 参照 「Drag'n Drop CD + DVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 Drag'n Drop CD + DVD を終了する

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了するときは、次の手順で行います。

- 1 通知領域の [Drag'n Drop CD + DVD] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする
デスクトップに表示されていたアイコンが消えます。

4 DVD-Video を観る

本製品は、ドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、インタービデオ ウィンディーブイディー「InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力キューティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時的に停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- 外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示されません。

参照▶ 表示装置の切り替え「4章 6-2 テレビに表示する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」は Windows を起動した状態でも、Windows が起動していない状態からでも Windows を自動的に起動して、実行することができます。

1 Windowsから起動する

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 ▶ DVDのセットについて『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』
アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] でドライブのアイコンをダブルクリックしてください。「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 [DVDムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

メモ

[スタート] メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [InterVideo WinDVD] をクリックしてください。

2 オーディオプレイボタンから起動する

Windows が起動していないときに、オーディオプレイボタンで「InterVideo WinDVD」を起動できます。

- 1 CD/DVD モード  LED が点灯するまでモード切替ボタンを押す
ドライブの電源が入ります。Power  LED は点灯しません。
- 2 停止ボタンを押す
しばらくしてディスクトレイが出てきます。
- 3 DVD-Video をセットする

参照 ▶ DVDのセットについて『基本をマスター 1章 1-③ CD/DVD』

4 再生／一時停止ボタンを押す

しばらくすると Windows が起動し、その後「InterVideo WinDVD」が起動します。DVD-Video を再生する場合は、続けて「再生」ボタンをクリックしてください。

2) InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

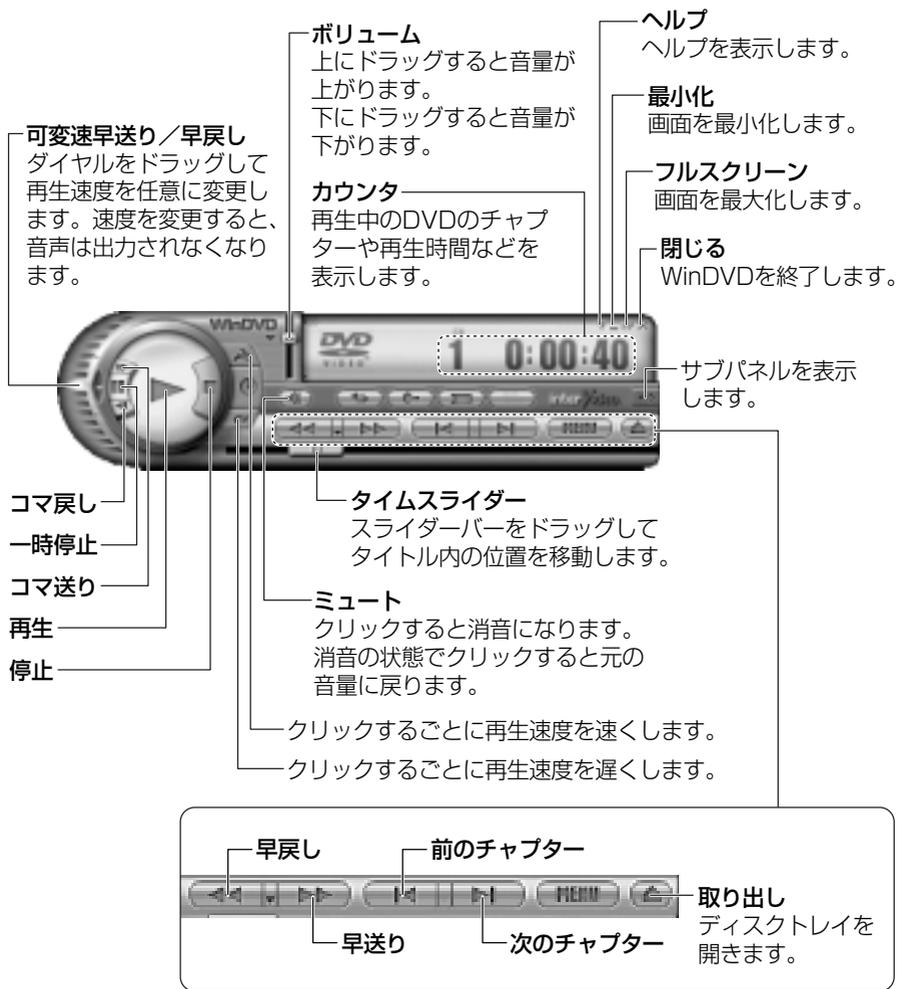


WinDVDコントロールパネル

DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。再生の操作でももに使用するボタンについては、「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照してください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生するDVDに応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 【サブパネルを閉じる】 ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適応されます。

- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



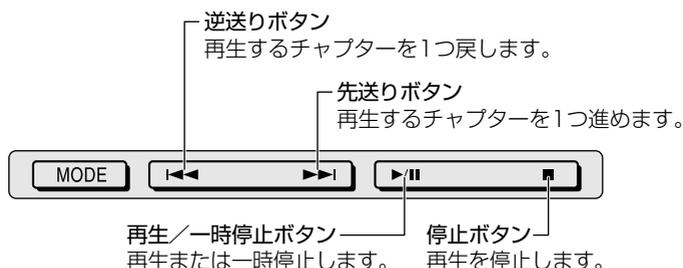
[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 オーディオプレイボタンで操作する

1 [Easy Button] アイコン () が通知領域に表示され、CD/DVDモード LED が点灯していることを確認する

LED が点灯していない場合は、点灯するまでモード切替ボタンを押してください。

参照 詳細について「1章 2-③-1 オーディオプレイボタンを使うには」オーディオプレイボタンで操作できるようになります。



5 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Videoの再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

参照 テレビの接続、表示装置の切り替え「4章 6 テレビを接続する」

ヘルプの起動方法

1 [ヘルプ] ボタン () をクリックする

参照 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

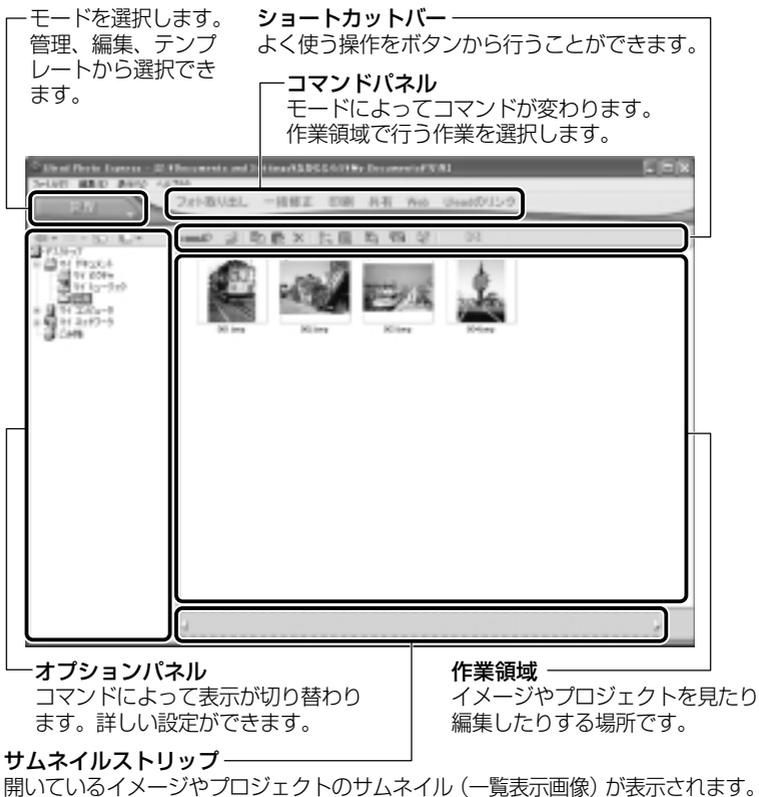
本製品には、画像を編集できるアプリケーション「ウォーカー デジカメ Walker (ユーリード Ulead アイフォト iPhoto エクスプレス Express)」が用意されています。

1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする



2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 **【編集】モード** () でコマンドパネルから**【フォト取り出し】** → **【マイコンピュータ】** をクリックする
オプションパネルに**【参照中のフォルダ】**が表示されます。
- 2  をクリックし、表示されたメニューから**編集する写真のあるフォルダ**をクリックする
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 **編集する画像のサムネイル**をクリックし、**【開く】** ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

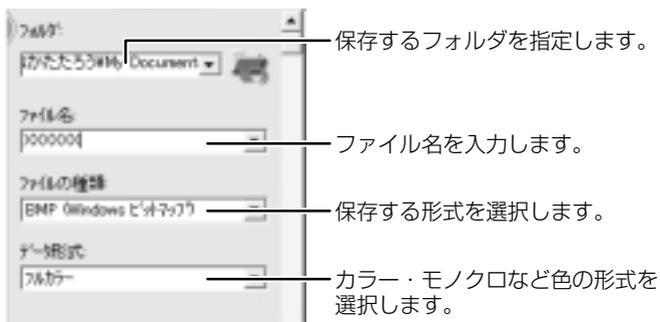
- 4 コマンドパネルから**【編集】** のメニューをクリックし、**画像を加工する**

次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

- 1 コマンドパネルから **[共有]** → **[保存]** をクリックする
オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



- 2 **[保存]** ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「**デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)**」を起動後、メニューバーから **[ヘルプ]** → **[Ulead iPhoto Express のヘルプ]** をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

- 1 **[スタート]** → **[すべてのプログラム]** → **[デジカメ Walker]** → **[Screenbook]** をクリックする

参照 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

6 オリジナル DVD を作る

本製品には、映像を編集したり、DVD に書き込むためのアプリケーション

「MotionDV STUDIO」モーションディバイスタジオ 「DVDfunSTUDIO」ディーバイディーファンスタジオ 「DVD-MovieAlbum」ディーバイディームービーアルバム が用意されています。

アプリケーションをインストールする

「MotionDV STUDIO」 「DVDfunSTUDIO」 「DVD-MovieAlbum」 は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

【 MotionDV STUDIO のインストール方法 】

- 1 「MotionDV STUDIO」 と記載されている CD をセットする

 参照 CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

- 2 画面の指示に従って「MotionDV STUDIO」をインストールする

【 DVDfunSTUDIO のインストール方法 】

- 1 「DVDfunSTUDIO」 と記載されている CD をセットする

 参照 CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

- 2 画面の指示に従って「DVDfunSTUDIO」をインストールする

【 DVD-MovieAlbum のインストール方法 】

- 1 「DVD-MovieAlbum」 と記載されている CD をセットする

 参照 CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

- 2 画面の指示に従って「DVD-MovieAlbum」をインストールする

1 映像データの取り込み／編集からDVDに書き込むまでの流れ

映像データをデジタルビデオカメラから取り込んで、DVDに書き込むまでの流れは、次のとおりです。

映像データをパソコンに取り込む

デジタルビデオカメラを接続し、映像データを「MotionDV STUDIO」を使ってパソコンに取り込みます。

i.LINK (IEEE1394) ケーブルを用意してください。

参照 ▶ 「本節 ② 映像データをパソコンに取り込む」

映像データを編集する

取り込んだ映像データを「MotionDV STUDIO」を使って編集します。

参照 ▶ 「本節 ③ 映像データを編集する」

DVD-RW、DVD-Rに書き込む

編集した映像データを「DVDfun STUDIO」を使ってDVD-Video形式で書き込みます。

参照 ▶ 「本節 ④-1
DVD-RW、DVD-Rに書き込む」

DVD-RAMに書き込む

編集した映像データを「DVD-MovieAlbum」を使ってDVD-VR形式で書き込みます。

参照 ▶ 「本節 ④-2
DVD-RAMに書き込む」

2 映像データをパソコンに取り込む

デジタルビデオカメラを接続し、映像データをパソコンに取り込みます。

1 i.LINK (IEEE1394) ケーブルをパソコン本体に接続する

参照▶ i.LINK ケーブルの接続

[4章 8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する]

2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する

3 デジタルビデオカメラの電源を入れる

[デジタル ビデオ デバイス] 画面が表示されます。

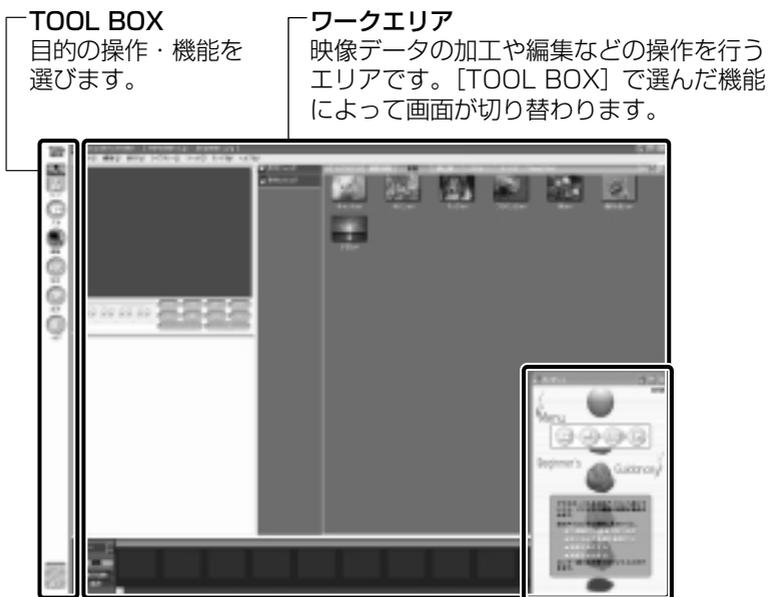
4 [ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用] を選択し

①、[OK] ボタンをクリックする②



「MotionDV STUDIO」が起動します。初めて起動したときは、
[Panasonic MotionDV STUDIO 使用許諾書] 画面が表示されます。契
約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。

【[MotionDV STUDIO] 画面】



ビギナーズガイドンス
[TOOL BOX] で選んだ機能に関する操作説明が表示されます。

- 5 [TOOL BOX] の [入力] ボタン () をクリックする
[ワークエリア] が [コントロール画面] と [ライブラリ] に分かれます。



- 6 [再生] ボタン () をクリックする
接続したデジタルビデオカメラの映像が再生され、[コントロール画面] に映像を表示します。

- 7 取り込みたいシーンで [動画取込み] ボタン () をクリックする
取り込み中は次の画面が表示されます。



- 8 取り込みを終了したいシーンで [終了] ボタンをクリックする
取り込んだ映像 (本書では「ビデオクリップ」と呼びます) が保存され、
[ライブラリ] の [動画] タブにビデオクリップの最初のシーンがアイコン
表示されます。



取り込みたいシーンで手順 7 と 8 を繰り返します。取り込んだシーンごとにビデオクリップが作成されます。

取り込みが終了したら [停止] ボタン () をクリックして映像の再生を停止します。

3 映像データを編集する (MotionDV STUDIO)

「MotionDV STUDIO」を使って、デジタルビデオカメラから取り込んだ映像データにタイトルを付けたり、複数の映像データをつなぎ合わせるなど編集することができます。ここではタイトルをつけ、他の映像データとつなぎ合わせて1つの映像データにしてみましょう。

お願い 映像データの編集について

- 「InterVideo WinDVD」など映像を表示するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示できない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。本体に外部ディスプレイを接続している場合、外部ディスプレイには表示されません。
- 著作権保護された映像が保存されている DVD-RW、DVD-R の映像の編集は「MotionDV STUDIO」では行えません。
- 「DVD-MovieAlbum」では著作権保護されているコンテンツは再生できません。検出した時点で、再生を中止します。
- 「MotionDV STUDIO」動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないでください。

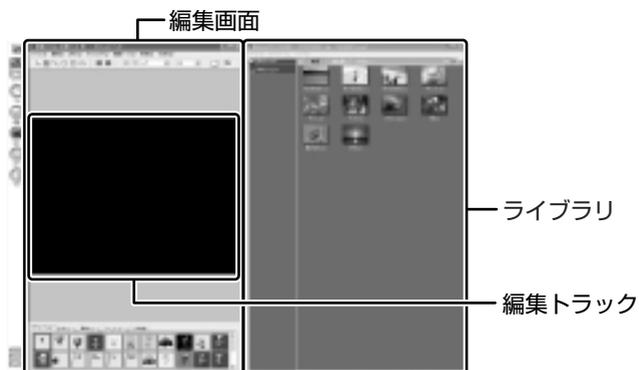
メモ

デジタルビデオカメラから映像データを取り込んだ後、「MotionDV STUDIO」を終了させた場合は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO for TOSHIBA] → [MotionDV STUDIO] をクリックして、もう1度「MotionDV STUDIO」を起動してください。

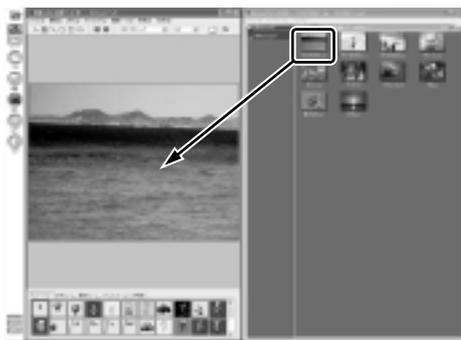
1 タイトルを入れる

取り込んだ映像データにタイトルなどの文字を追加する場合は、ビデオクリップを選択し、文字を入力して別のビデオクリップとして保存します。追加した文字は、そのビデオクリップの初めから終わりまで表示されます。

- 1 [TOOL BOX] の [加工] ボタン (**ABC**) をクリックする
[ワークエリア] が [編集画面] と [ライブラリ] に分かれます。



- 2 [ライブラリ] の [動画] タブから編集したいビデオクリップを [編集トラック] にドラッグアンドドロップする



- 3 [編集画面] のツールバーの [文字] アイコンをクリックする

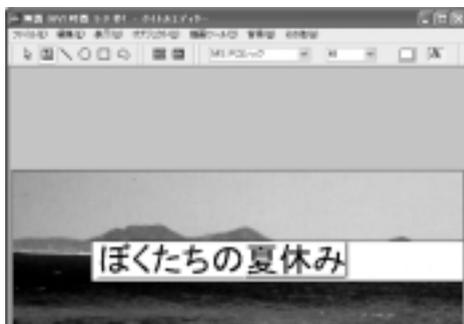


4 [編集トラック] でクリックする



画面上にカーソルが表示され、文字が入力できます。

5 文字を入力する



6 [編集画面] のツールバーの [選択] アイコンをクリックする



入力した文字が選択されます。



7 [編集画面] のツールバーの [文字フォント] [文字サイズ] [文字色] でフォント、サイズ、色を選択する

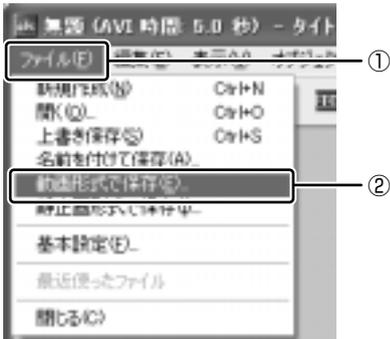


8 ポインタが の状態でドラッグアンドドロップする



ドロップした位置に文字が配置されます。

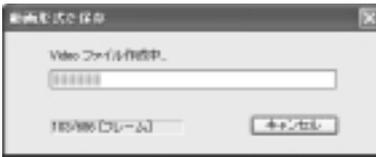
9 【編集画面】のメニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【動画形式で保存】をクリックする②



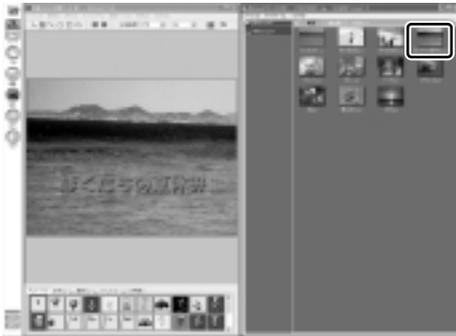
ビデオクリップとして使用するので、
【動画形式で保存】を選択します。

10 ファイル名を入力し、【保存】ボタンをクリックする

ファイル作成中の画面が表示されます。



ファイルの作成が終わると、作成したビデオクリップが【ライブラリ】の【動画】タブに新しいビデオクリップとして表示されます。



2 複数のビデオクリップをつなぎ合わせる

いくつかのビデオクリップをつなぎ合わせて1つの映像データに編集します。

1 [TOOL BOX] の [編集] ボタン () をクリックする

「無題への変更を保存しますか?」という画面が表示された場合は [いいえ] ボタンをクリックしてください。

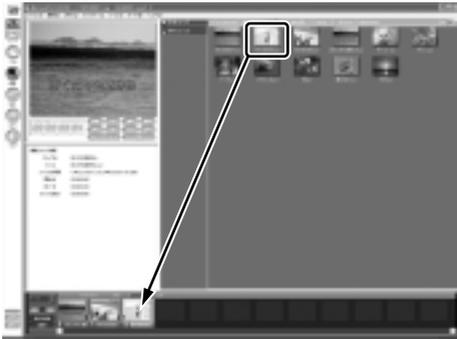
ワークエリアが [コントロール画面]、[ライブラリ]、[編集トラック画面]に分かれます。



2 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [新規作成] をクリックする②



3 [ライブラリ] の [動画] タブからつなぎ合わせたいビデオクリップのアイコンを [編集トラック画面] にドラッグアンドドロップする



[編集トラック画面] にドロップされたビデオクリップは1つの映像データになります。

[再生] ボタン () をクリックすると、編集した映像データを [コントロール画面] に再生します。[クリップを戻す] ボタン () や [クリップを送る] ボタン () で再生を開始するビデオクリップを変更できます。

編集した映像データを保存する

編集した映像データを保存したり、途中でやめるときは、次の手順で保存します。

- 1 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [編集情報] → [編集情報を名前を付けて保存] をクリックする②



- 2 ファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックする

保存先は「MotionDV STUDIO」でビデオクリップを保存しているフォルダを指定してください。

編集を再開する

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動し、[TOOL BOX] の [編集] ボタン () をクリックする
- 2 [ライブラリ] の [編集情報] タブでビデオクリップのアイコンをダブルクリックする



前回保存した映像データのビデオクリップが [編集トラック画面] に展開されます。

編集を続け、同じファイル名で保存するときはメニューバーの [ファイル] をクリックし、表示されたメニューから [編集情報] → [編集情報を上書き保存] をクリックします。

お願い 編集した映像データについて

- 編集した映像データを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

「MotionDV STUDIO」にはこの他にもいろいろな編集ツールがあります。さらに詳しい使い方については、ヘルプを確認してください。

MotionDV STUDIOのヘルプの起動方法

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーの [ヘルプ] をクリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする
ヘルプを起動すると「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

 「MotionDV STUDIO」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 編集した映像データを DVD に書き込む

編集した映像データを DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R に書き込むことができます。DVD-RAM へ書き込む場合と、DVD-RW、DVD-R へ書き込む場合とで手順が異なります。

お願い 編集した映像データを DVD に書き込む前に

編集した映像データを書き込む場合は、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R に書き込みを行う際には、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器の取扱説明書でも推奨されているメディアを使用してください。

▶ 参考 → DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R について
「1章 8-③ 使用できる DVD」

- ヘルプやオンラインマニュアル上に JPEG ファイルが扱える記述がありますが、実際には使用できません。
- 本製品に付属の「MotionDV STUDIO」「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」以外の映像データライティングソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 「Drag'n Drop CD + DVD」などドライブをロックするアプリケーションが常駐している場合は、DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R への書き込みは行えません。「Drag'n Drop CD + DVD」は必ず終了させてください。

▶ 参照 → 「Drag'n Drop CD + DVD」の終了
「本章 3-③ Drag'n Drop CD + DVD を終了する」

- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

▶ 参照 → 詳細について
「5章 2 省電力の設定をする」
「5章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

-
- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ スクリーンセーバ
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション など
- ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、i.LINK 対応機器、SD メモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオプレイボタンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

1 DVD-RW、DVD-Rに書き込む(DVDfunSTUDIO)

DVD-RW、DVD-Rに書き込む場合は「DVDfunSTUDIO」を使用します。

お願い 「DVDfunSTUDIO」について

- 「DVDfunSTUDIO」では、8cm (3.15") のDVD-RW、DVD-Rへの書き込みはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-RW、DVD-RにVRフォーマットでの書き込みはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、書き込みが可能なDVD-RW、DVD-Rへ最大約3時間の映像データをDVDビデオフォーマットで記録できます。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-AudioやVideo CD、miniDVDを作成することはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-RAMをサポートしていないため、DVD-RAMにDVD-Video形式のデータを書き込むことはできません。また、DVD-RAMをドライブにセットした状態で動作させると正しく処理ができない場合があります。

- 「DVDfunSTUDIO」で、DVD-RW、DVD-Rへ書き込みを行うには、ハードディスクに20GB以上の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。
- 書き込み済みのDVD-RWに書き込みを行う場合は、「Drag'n Drop CD + DVD」などで消去する必要があります。消去方法については、「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプを確認してください。

参照▶ 「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプ

「本章 3-② Drag'n Drop CD + DVDを使う」

- 「DVDfunSTUDIO」で、DVD-RW、DVD-Rに映像データを書き込む場合、映像データの大きさによってはデータの変換に数時間かかることがあります。またディスクの書き込み終了までには、さらに数時間かかることがあります。

メモ

映像データを編集した後、「MotionDV STUDIO」を終了させた場合は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO for TOSHIBA] → [MotionDV STUDIO] をクリックして、もう1度「MotionDV STUDIO」を起動してください。

ここでは、映像データの編集から引き続き、DVD-RW、DVD-Rへ書き込む方法について説明します。

1 【TOOL BOX】の【出力】ボタンにポインタを合わせ①、【DVD-R/RWへ出力】ボタンをクリックする②



ワークエリアに [DVD-R/RW 出力] 画面が表示されます。



[DVD-R/RW 出力] 画面に表示されている映像データを書き込みます。書き込む映像データを変更する場合は、[ライブラリ] から映像データを選択し、[DVD-R/RW 出力] 画面にドラッグアンドドロップしてください。名前をつけて保存してある映像データは [ライブラリ] の [編集情報] タブから、デジタルビデオカメラから取り込んだビデオクリップは [動画] タブから選択できます。

2 [DVD-R/RW 出力] 画面で [出力] ボタン () をクリックする

出力用ファイルを作成します。映像データの大きさによっては、変換に数時間かかることがあります。出力用ファイルが作成できると「DVDfunSTUDIO」が起動します。

初めて起動したときは、[Panasonic DVDfunSTUDIO 使用許諾書] 画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。



3 ドライブにDVD-RWまたはDVD-Rをセットする

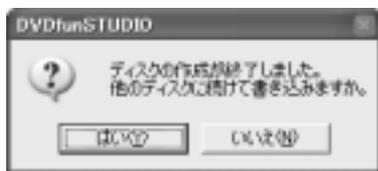
4 映像データが選択されていることを確認し、【書き込み】ボタン()をクリックする

「作成を開始します。」のメッセージ画面が表示されます。

5 【はい】ボタンをクリックする

映像データを書き込みます。書き込み中は進行状況が表示されます。映像データの大きさによっては、書き込み終了までに数時間かかることがあります。

書き込みが終了すると、メッセージが表示され、ドライブのディスクトレイが少し出てきます。



同じ映像データを他のDVD-RW、DVD-Rにも続けて書き込む場合は、DVD-RWまたはDVD-Rを入れ替えて、【はい】ボタンをクリックしてください。手順5の最初から繰り返し実行します。

書き込みを終了する場合は、DVD-RWまたはDVD-Rを取り出してディスクトレイを押し戻してから、【いいえ】ボタンをクリックしてください。「DVDfunSTUDIOを終了します。」というメッセージが表示されます。

6 【はい】ボタンをクリックする

「変更を保存しますか？」というメッセージが表示されます。

7 【いいえ】ボタンをクリックする

【MotionDV STUDIO】画面が表示されます。

8 【TOOL BOX】の【MotionDV STUDIO 終了】ボタン()をクリックする

DVDfunSTUDIOのヘルプの起動方法

1 「DVDfunSTUDIO」を起動後、【ヘルプ】ボタン()をクリックする

「Acrobat Reader」が起動し、PDFマニュアルが表示されます。



「DVDfunSTUDIO」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

お願い 作成した DVD-RW、DVD-R について

- 作成した DVD-RW、DVD-R は、一部の家庭用 DVD ビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合もあります。
- 作成した DVD-RW、DVD-R を本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

2 DVD-RAMに書き込む(DVD-MovieAlbum)

DVD-RAM に書き込む場合は「DVD-MovieAlbum」を使用します。

お願い 「DVD-MovieAlbum」について

- 「DVD-MovieAlbum」で DVD-RAM へ書き込むには、あらかじめフォーマットツールで UDF2.0 形式のフォーマットをしておく必要があります。
 - ▶ 参照 DVD-RAM のフォーマット「1 章 8-④ DVD-RAM を使うときは」
- 「DVD-MovieAlbum」で PAL 形式の映像を保存した DVD-RAM には、PAL 形式の映像しか追記できません。また、NTSC 形式の映像を保存した DVD-RAM には、NTSC 形式の映像しか追記できません。
- 「DVD-MovieAlbum」で PAL 形式で DVD-RAM に保存された映像は、NTSC 形式に変換できません。また、NTSC 形式で DVD-RAM に保存された映像は、PAL 形式に変換できません。
- DVD-RAM で VR フォーマットした場合、次の機能は使用できません。
マルチストーリー マルチアングル マルチアスペクト比 マルチランゲージ
パレントラルロック リージョンコード コピーガード

メモ

映像データを編集した後、「MotionDV STUDIO」を終了させた場合は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO for TOSHIBA] → [MotionDV STUDIO] をクリックして、もう 1 度「MotionDV STUDIO」を起動してください。

ここでは、映像データの編集から引き続き、DVD-RAMへ書き込む方法について説明します。

1 【TOOL BOX】の【出力】ボタンにポインタを合わせ①、【DVD-RAMへ出力】ボタンをクリックする②



ワークエリアに【DVD-RAM出力】画面が表示されます。



【DVD-RAM出力】画面に表示されている映像データを書き込みます。書き込む映像データを変更する場合は、【ライブラリ】から映像データを選択し、【DVD-RAM出力】画面にドラッグアンドドロップしてください。名前をつけて保存してある映像データは【ライブラリ】の【編集情報】タブから、デジタルビデオカメラから取り込んだビデオクリップは【動画】タブから選択できます。

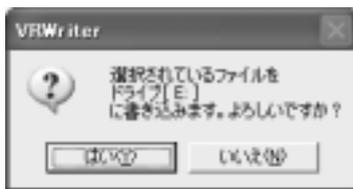
- 2 [DVD-RAM 出力] 画面で [出力] ボタン () をクリックする
出力用ファイルを作成します。出力用ファイルが作成できると「VRWriter」
が起動します。

「VRWriter」は、「DVD-MovieAlbum」のなかのライティングソフトウェア
です。DVD-RAM への書き込みにはこのソフトウェアを使用します。



- 3 ドライブに DVD-RAM をセットする

- 4 映像データを選択し、[開始] ボタン () をクリックする
確認のメッセージが表示されます。



- 5 [はい] ボタンをクリックする

映像データを書き込みます。

書き込み中は進行状況が表示され、書き込みが終了すると、メッセージが
表示されます。



- 6 [OK] ボタンをクリックする

7 [閉じる] ボタン () をクリックする

[MotionDV STUDIO] 画面が表示されます。

8 [TOOL BOX] の [MotionDV STUDIO 終了] ボタン () をクリックする**お願い** 作成したDVD-RAMについて

- 作成したDVD-RAMは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合があります。
- 作成したDVD-RAMを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

VRWriterのヘルプの起動方法

- 1** 「VRWriter」を起動後、[ヘルプ] ボタン () をクリックする
- 2** 表示されたメニューから [VRWriterのマニュアル] をクリックする
ヘルプを起動すると「Acrobat Reader」が起動し、PDFマニュアルが表示されます。

 参照 「VRWriter (DVD-MovieAlbum)」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、自動的にメールチェックするときや海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 116
 - 2 Bluetooth機能を使う 122
 - 3 新着メールをLEDで確認する 132
 - 4 内蔵モデムについて 136

1 LANへ接続する

1 LANへ接続する

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

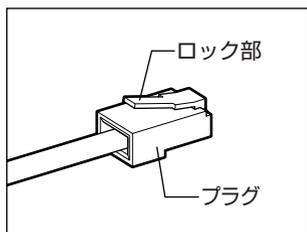
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格(100Mbps)で使用するときには、必ずカテゴリ5(CAT5)以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ3のケーブルは使用できません。

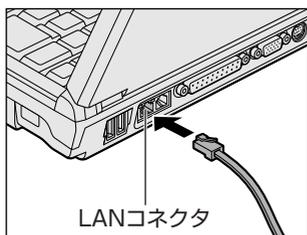
10BASE-T規格(10Mbps)で使用するときには、カテゴリ3(CAT3)以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

- 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 2 LANケーブルのプラグを背面のLANコネクタに差し込む



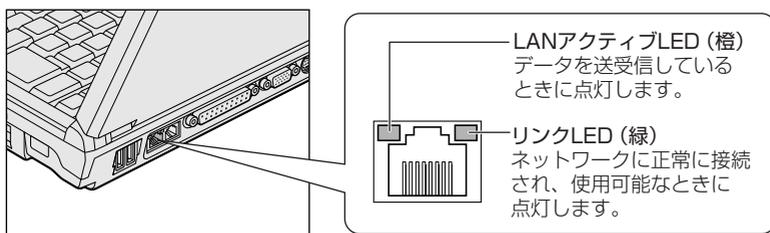
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

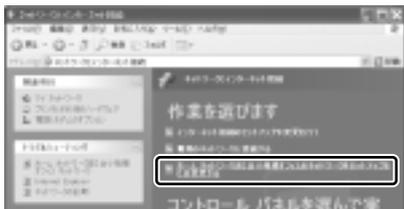
購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

1 [コントロールパネル]を開き、[ネットワークとインターネット接続]をクリックする

2 「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックする



「ネットワークセットアップウィザードの開始」画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「^{コンフィグフリー}ConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者アカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動すると通知領域にアイコン（）が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA ConfigFree] → [ConfigFree] をクリックする

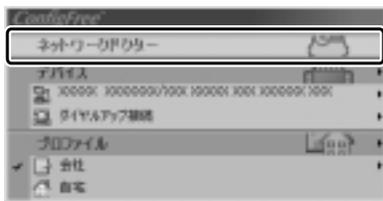
通知領域にアイコン（）が表示され、[ConfigFree（ネットワークドクター）] 画面が表示されます。

「ConfigFree」を初めて起動したときは、「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降必要のない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

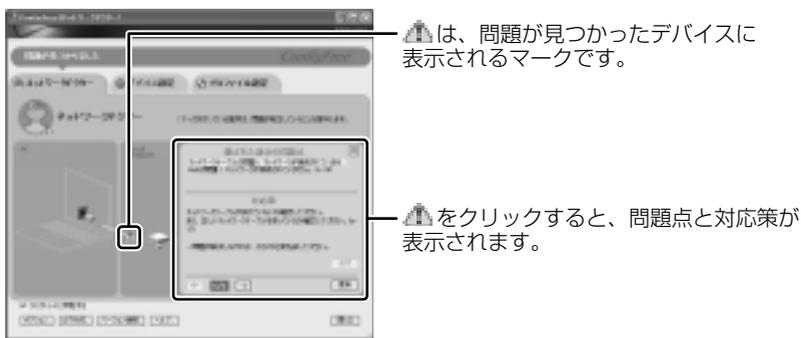
「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

- 1 通知領域の【ConfigFree】アイコン () をクリックする
メニューが表示されます。
- 2 【ネットワークドクター】をクリックする



【ConfigFree (ネットワークドクター)】画面が表示されます。

【ConfigFree (ネットワークドクター)】画面】



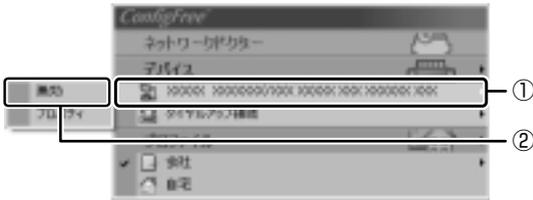
また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタをあわせると、それぞれのデバイスの説明やIPアドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える

「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- 1 通知領域の【ConfigFree】アイコン () をクリックする
メニューが表示されます。
【デバイス】の下に表示されている項目が使用できるデバイスです。

2 有効／無効にしたいデバイス名にポインタをあわせ①、有効／無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【その他のデバイス設定】

[ConfigFree] アイコン () → [デバイス] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (デバイス設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

● 自動切り替え (ケーブル切断)

PC カードタイプなどの無線 LAN 機器を接続した場合のみ使用できます。
[ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます] をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。

● ネットワークとダイヤルアップ接続

[ネットワーク接続] ボタンをクリックすると [ネットワーク接続] 画面が表示され、ネットワーク接続とダイヤルアップ接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

[ConfigFree] では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

 プロファイルの登録「本項 3-その他のプロファイル設定」

1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックする

メニューが表示されます。

[プロファイル] の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【その他のプロファイル設定】

[ConfigFree] アイコン () → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

● プロファイルの追加

[追加] ボタンをクリックすると、[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

● プロファイルの削除

プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。プロファイルが削除されます。

● 自動切り替え (SSID)

PC カードタイプなどの無線 LAN 機器を接続した場合のみ使用できます。

[自動切り替え] ボタンをクリックすると、[自動切り替え] 画面が表示されます。

[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

[ConfigFree] の詳細については、ヘルプを確認してください。

終了方法

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 [ConfigFree] を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

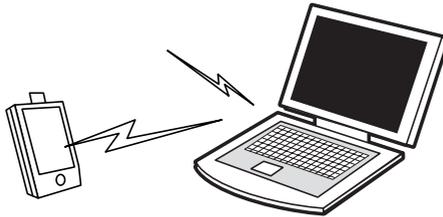
2 Bluetooth 機能を使う

1 Bluetooth とは

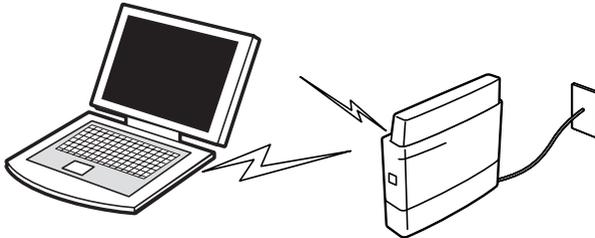
ブルートゥース
Bluetooth とは、無線通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD カードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のモデムステーションを利用してインターネットに接続できたりします。

- PDA と…

(使用例)



- Bluetooth 対応のモデムステーションと…



また、Bluetooth 対応機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となる Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。2 つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。

お願い

本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。

【通信距離と速度】

本製品は、見通し約 10 m の範囲で通信できます。赤外線通信のように、コネクタを向き合わせる必要はありません。データ通信速度は最大約 720kbps です。通信距離、通信速度は、周囲の電波環境、障害物設置環境、アプリケーションソフトウェア、OS などにより異なります。また、周囲の電波環境などにより通信が切断される場合があります。

【セキュリティ】

Bluetooth 機能を使って通信を行うときに使用する 2.4GHz 帯は、日本をはじめ世界各国で特別な認可なしに使用できる周波数帯域です。そのため、不特定の Bluetooth 対応機器から接続されたり、同じ周波数帯域を使用する他の機器（電子レンジなど）の電波の干渉を受ける可能性があります。

Bluetooth 対応機器には、それぞれ固有の ID が割り振られ、接続時には ID の交換を行ったり、通信中は、使用周波数をランダムに切り替えるなど、他の機器からの干渉を軽減する仕様になっているので高いセキュリティ機能があります。また、本製品にインストールされている「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の「Bluetooth Service Center」で、初めて通信を開始するときに「Bluetooth パスキー」が必要になる設定もできます。Bluetooth パスキーについては、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」のヘルプ『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を参照してください。

参照 → 『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』の起動方法
「本節 ② - ヘルプの起動」

【Bluetooth 標準規格】

Bluetooth は様々な機器同士で無線通信できることを目標にした無線技術です。そのため、各国・各メーカーの Bluetooth 対応機器でスムーズに通信できるように Bluetooth SIG (Special Interest Group) が無線通信の方式など相互接続に必要な仕様の標準規格を定めています。また、各メーカーは Bluetooth 対応機器の発売にあたり、その Bluetooth 対応機器が Bluetooth 標準規格に適合しているか、認証を受けることを義務付けられています。Bluetooth SIG によって認証された Bluetooth 対応機器には、Bluetooth ロゴが添付されます。この規格に従えば、今後はゲーム機や家電など、さまざまな機器がワイヤレスで接続、コントロールできるようになると言われています。

【 サポートしているプロファイル一覧 】

本製品でサポートしている Bluetooth プロファイルは次のとおりです。

- ダイアルアップネットワークングプロファイル (DUN)
ダイアルアップで接続するプロファイルです。
- FAX プロファイル (FAX)
ファックスを転送するプロファイルです。
- LAN アクセスプロファイル (LAP)
アクセスポイントに接続するプロファイルです。
- シリアルポートプロファイル (SPP)
シリアルポートを使って接続するプロファイルです。
- ヒューマンインタフェースデバイスプロファイル (HID)
マウスやキーボードを接続するプロファイルです。
- ハードウェアケーブルリプレースメントプロファイル (HCRP)
印刷を行うプロファイルです。
- ファイル転送プロファイル (FTP)
ファイルを転送するプロファイルです。
- オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)
vCard などのフォーマットのファイルを交換するプロファイルです。
- ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)
Bluetooth の環境設定を変更するプロファイルです。
- サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)
SDP を制御するアプリケーションに関するプロファイルです。
- サービスディスカバリープロトコル (SDP)
サービスを探すプロトコルです。

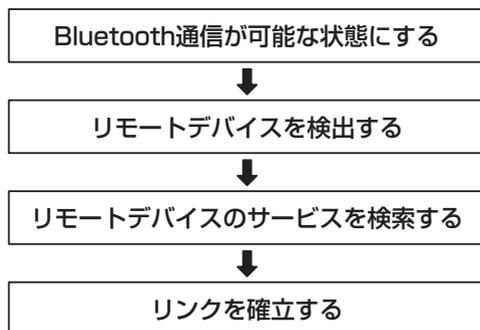
Bluetooth を利用して Pocket PC と ActiveSync を行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常は COM7 ポートを指定することができます。

2 Bluetooth 機能を使って通信する

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth 東芝ユーティリティ」がプレインストールされています。

- Bluetooth 設定
- Bluetooth Manager
- Bluetooth Information Exchanger
- Bluetooth Service Center (Bluetooth サービスセンター)
- Bluetooth Local COM

これらの中心となるのは、「Bluetooth 設定」と「Bluetooth Manager」です。ここでは「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の基本的な使いかたを紹介します。通信するまでの流れは、次のとおりです。



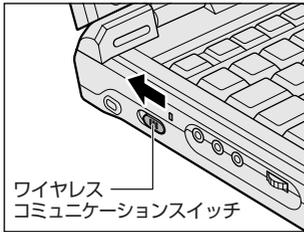
1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠ 警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

Bluetooth 機能の起動方法

- 1 本体左側にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [詳細設定] → [Bluetooth Manager] をクリックする
「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン () が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回 Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。
はじめて起動したときは、[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が何度か表示されます。画面に従って操作してください。
途中、「Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としないので、[続行] ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



[Bluetooth Manager] アイコン () はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

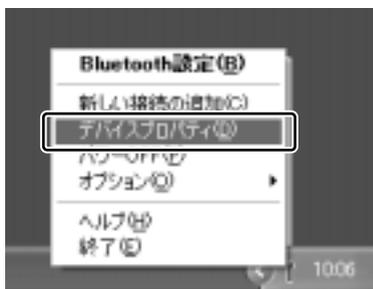
Bluetooth の電源が入っていない場合には、[Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックして表示されたメニューから、[パワー ON] を選択して電源を入れてください。

デバイス名の設定

自分のマシンに名前をつけます。他の機器で検出されたときに、ここで設定した名前が表示されます。一度設定した名前を使用するときは、この操作は必要ありません。

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックする

2 表示されたメニューから [デバイスプロパティ] をクリックする



[デバイスプロパティ] 画面が表示されます。

3 [デバイス名] に名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②

ここでは、名前を「ToshibaBtなかた」と入力しています。



デバイス名が設定されます。

Bluetooth 設定の起動

「Bluetooth 設定」は、他の Bluetooth 対応機器との通信を管理するユーティリティです。

1 Bluetooth 通信が可能な状態にする

2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () をダブルクリックする

「Bluetooth 設定」が起動します。

はじめて起動するとき、または、通信を行うことができる他の Bluetooth 対応機器が登録されていないときは、[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。

▶ 参照 [新しい接続の追加ウィザード] 画面
[本項 2 リモートデバイスを登録する]

2 リモートデバイスを登録する

「Bluetooth 設定」に、通信を行いたい Bluetooth 対応機器を登録します。

「Bluetooth 設定」の「新しい接続の追加ウィザード」で、新しい接続の検出を行うと、その時点で通信可能な他の Bluetooth 対応機器がわかります。また、その Bluetooth 対応機器が、どのようなサービス（Bluetooth での通信の種類）を実行できるのかを調べます。

通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」と呼びます。

1 「Bluetooth 設定」を起動する

2 [新しい接続] ボタン () をクリックする

[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。

画面に従って操作してください。



【Bluetooth 設定】画面

「新しい接続の追加ウィザード」が完了すると、[Bluetooth 設定] 画面が表示されます。

検出されたリモートデバイスの接続アイコンが、接続用アイコンウィンドウに表示されます。



リモートデバイスが登録され、通信を行う準備ができました。

3 Bluetooth通信を接続／切断する

「Bluetooth 設定」に登録されたリモートデバイスは、Bluetooth プロファイルの種類によって、自動的に接続／切断されるものと、手動で接続／切断する必要があるものがあります。

詳しくは、『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を確認してください。

Bluetooth プロファイル	接続／切断方法
ダイヤルアップネットワーキング プロファイル (DUN)	COM 自動接続機能設定を有効にしている場合は、関連するアプリケーションを使用するときに、必要に応じて自動的にリモートデバイスに接続／切断されます。
FAX プロファイル (FAX)	
LAN アクセスプロファイル (LAP)	
シリアルポートプロファイル (SPP)	
ヒューマンインタフェースデバイス プロファイル (HID)	マウスを動かすなどの操作により、自動的に接続されます。 ただし、パソコン側で一時的に切断した後の接続、リモートデバイスを他のパソコンと接続して、記憶されていたアドレスが更新された場合などは、手動で接続する必要があります。
ハードウェアケーブルリプレースメント プロファイル (HCRP)	手動接続／切断を行う必要はありません。 アプリケーションから印刷を行うことで、自動的に印刷ができます。
ファイル転送プロファイル (FTP)	手動接続／切断を行う必要はありません。 エクスプローラの右クリックメニューなどからファイル転送ができます。
オブジェクトプッシュ プロファイル (OPP)	手動接続／切断を行う必要はありません。 エクスプローラの右クリックメニューなどから名刺交換ができます。

ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)、サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)、サービスディスカバリープロトコル (SDP) は、基本プロファイルです。



参照 COM 自動接続機能設定

『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』

ここでは、手動による Bluetooth 接続／切断を行う方法を説明します。

接続方法

手動で Bluetooth 通信を接続するには、次の操作を行ってください。

- 1 接続するリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから【接続】をクリックする②

接続が確立すると、選択したリモートデバイスのアイコンが接続状態に変わります。



切断方法

手動で Bluetooth 通信をやめるには、次の操作を行ってください。

- 1 接続しているリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから【切断】をクリックする②



確認のメッセージが表示されます。

2 【はい】 ボタンをクリックする

接続が切断されると、選択したリモートデバイスのアイコンが切断状態に変わります。

ヘルプの起動

【クイックスタートガイド】

『クイックスタートガイド』では、Bluetoothの基本的な使用方法について説明しています。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [クイックスタートガイド] をクリックする

【Bluetooth Toshiba Utility User's Guide】

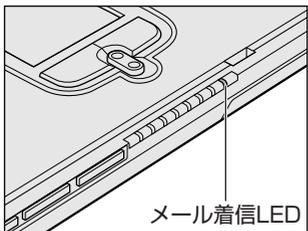
『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』では、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」について説明しています。

- 1 「Bluetooth Manager」を起動する
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする

 「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の問い合わせ
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 新着メールをLEDで確認する

メールソフトを起動しなくても、Windows 起動中は設定した間隔で新着メールが届いているかどうかチェックできます。これを新着メールチェック機能といいます。POP3 をサポートしないプロバイダ（AOL など）と契約してインターネット接続を行っている場合、新着メールチェック機能は使用できません。



新着メールが届いていると、メール着信  LED が緑色に点灯します。

新着メールチェック機能を使用するには、あらかじめ設定が必要です。新着メールチェックを行うには、電話料金およびプロバイダへの接続料金がかかります。ここでは内蔵モデムを使用した接続を前提に説明します。

【新着メールチェック機能を使用できる状態】

新着メールチェック機能を使用するときは、必ず AC アダプタを使用し、本製品と電話回線をモジュラーケーブルで接続してください。

新着メールチェック機能はパソコンの電源が入っているときに使用できます。

また、メールソフトの設定が完了している場合に使用できます。

メールソフトの設定については、契約しているプロバイダからの資料を確認してください。

1 新着メールチェックの設定をする

新着メールチェック機能を使用するために必要な、各種設定について説明します。

1 新着メールチェックの環境を設定する

1 通知領域に [メール] アイコン () が表示されているかどうか確認する

アイコンが表示されていない場合は「1 章 2-④-1 起動方法」を参照して起動してください。

- 2 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [環境設定] をクリックする



- 3 必要な項目を設定し、[OK] ボタンをクリックする



電子メール	<p>使用しているメールボックスの情報を設定します。必ず設定してください。</p> <p>[ユーザ名] 受信メールサーバのアカウント名 [パスワード] 受信メールサーバのパスワード [POP3 サーバ] 受信メールサーバ名</p> <p>参照▶ 『まずはこれから インターネット設定チェックシート』 [情報の検索] ボタンをクリックすると、すでに設定されている電子メールの設定情報が表示され、ユーザ名とPOP3サーバを選択できます。</p>
着信確認	<p>新着メールの有無を確認する間隔を設定します。</p> <p>Windows を起動したときに確認するか、設定した時間で自動的に確認するかを選択します。</p>
着信通知	<p>新着メールがあったときに、LED が点灯する以外の通知方法を選択します。</p>

【メール着信LEDの設定】

通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [電子メール着信表示ランプの設定] をクリックすると、[電子メールLED 設定] 画面が表示されます。

新着メールがあったときに、LED を点灯させるかどうかや、点灯時間を設定できます。

2 インターネットへの接続の設定

- 1 ACアダプタとモジュラーケーブルを接続する
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 3 [インターネットオプション] をクリックする
[インターネットのプロパティ] 画面が表示されます。
- 4 [接続] タブで [通常のコネクションでダイヤルする] を選択し①、[設定] ボタンをクリックする②



- 5 [XX (接続先) の設定] 画面で [プロパティ] ボタンをクリックする
- 6 [オプション] タブで [名前、パスワード、証明書などの入力を求める] と [電話番号の入力を求める] のチェックをはずす

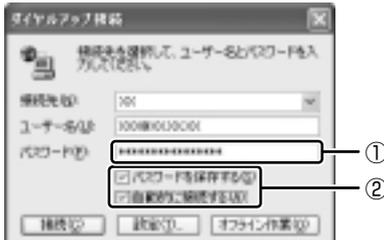


- 7 [OK] ボタンをクリックする
- 8 [XX (接続先) の設定] 画面で [OK] ボタンをクリックする
- 9 [インターネットのプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする
- 10 Internet Explorer を起動する

参照 → Internet Explorer の起動方法
『基本をマスター 2 章 1 Internet Explorer について』

参照 → インターネット接続について
『まずはこれから インターネットに接続しよう』

- 11 [ダイヤルアップ接続] 画面で、[パスワード] にパスワードを入力し①、[パスワードを保存する] と [自動的に接続する] をチェックする② ()



- 12 [接続] ボタンをクリックする

1度インターネットに接続して、設定を保存します。[キャンセル] ボタンや [閉じる] ボタン () をクリックすると設定は保存されません。インターネットに接続されると、[ダイヤルアップ接続] 画面が消えます。

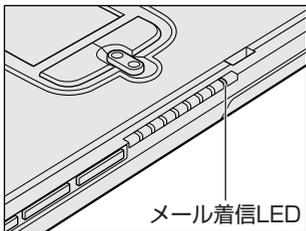
- 13 インターネットへ接続を続ける必要がない場合、Internet Explorer の [閉じる] ボタン () をクリックする

- 14 [今すぐ切断する] をクリックする

インターネットへの接続が終了します。

2) 新着メールを確認する

設定したスケジュールに従って、新着メールチェックが行われます。



メールサーバ上に新着メールや未開封メールがあると、メール着信 LED が緑色に点灯します。メールソフトでメールを受信し、メールの内容を確認してください。

メール着信LEDは、次の状態のときに消灯します。

- [電子メールLED設定] 画面の [LED点灯時間の設定] で設定した条件になったとき
- 新着メールチェック実行中
- 新着メールチェックを実行し、メールサーバ上に未開封メールがないとき
- イージーボタンユーティリティを終了したとき

4 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
 - 分岐アダプタとは
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
 - 回線切換器とは
1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年5月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用するすると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

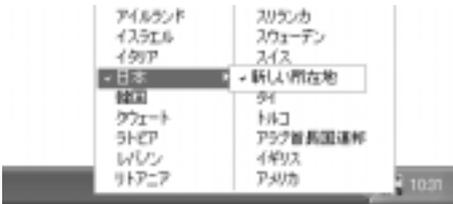
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

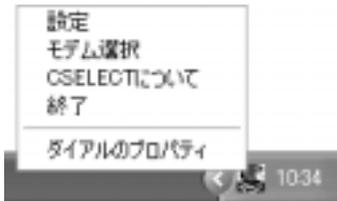
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。プリンタやスキャナ、外付けハードディスクドライブ、PC カード、増設メモリなど本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 140
 - 2 フロッピーディスクドライブを接続する 142
 - 3 PC カードを接続する 148
 - 4 USB 対応機器を接続する 151
 - 5 プリンタを接続する 153
 - 6 テレビを接続する 155
 - 7 CRT ディスプレイを接続する 160
 - 8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 161
 - 9 その他の機器を接続する 163
 - 10 メモリを増設する 166

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ（本製品では同梱）
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

 参照 ▶ 周辺機器の接続場所 「1章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。
- スタンバイ／休止状態中に周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱のUSB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、ほかのパソコンとデータをやり取りすることができます。

お願い フロッピーディスクドライブの使用にあたって

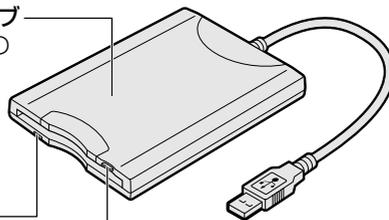
- パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDD LED が点灯しているとき）に電源を切ったり、USB ケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

1) フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブについて説明します。同梱のフロッピーディスクドライブには、専用のドライブは必要ありません。本製品に取り付ければ使用できます。フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしについては、「本章 4 USB 対応機器を接続する」を確認してください。

フロッピーディスクドライブ
3.5型の2HD、2DD形式のフロッピーディスクが使用できます。

FDD LED
点灯中は、フロッピーディスクにアクセスしていることを示します。



イジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すときに、このボタンを使用します。

役立つ
操作集

パソコンをフロッピーディスクから起動する場合

購入時の設定では、ハードディスクドライブからシステムを起動します。
フロッピーディスクから起動したい場合、次の方法で変更できます。

- ① (F12)キーを押しながら、電源スイッチを押す
- ② (↑)または(↓)キーで、[3.+取外し可能なデバイス]を選択し、(Enter)キーを押す

2) フロッピーディスク

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 使用できるフロッピーディスク

本製品に同梱のフロッピーディスクドライブで使用できるフロッピーディスクには3種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量	読み出し/書き込み	フォーマット
2DDタイプ	720KB	可	不可
2HDタイプ	1.2MB	可	不可
2HDタイプ	1.44MB	可	可

 参照 フォーマットについて「本節 ③ フロッピーディスクを使う前に」

ソニー（株）製の3.5型フロッピーディスク（2DD / 2HD）を使用することを推奨します。

他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクの内容を確認する

1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

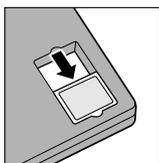
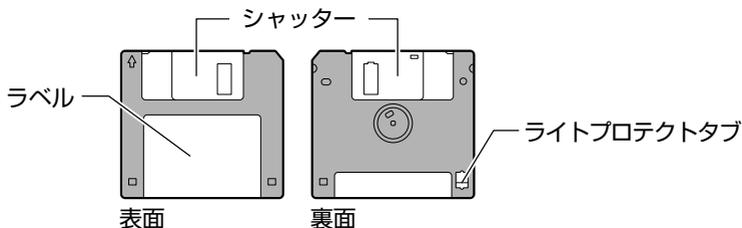
2 [ 3.5インチ FD (A:)] をダブルクリックする

[3.5インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3) フロッピーディスクを使う前に

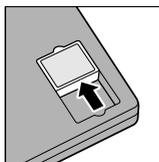
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの起動するのに必要な基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることで

お願い

フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマットできるのは、2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクのみです。2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクであることを確認してからフォーマットしてください。

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOSの起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前にWindowsでフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【MS-DOSの起動ディスクを作成する】

フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOSの起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

3 フォーマット方法

Windowsでのフォーマット方法を簡単に説明します。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3  3.5 インチ FD (A:) をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[フォーマット 3.5 インチ FD (A:)] 画面が表示されます。

5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする

クイックフォーマットを行う場合は、[クイックフォーマット] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順 5 から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[フォーマット 3.5 インチ FD (A:)] 画面で [閉じる] ボタン () をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

3 PCカードを接続する

目的に合わせたPC^{ビジー}カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDNカード
- SCSIカード
- 無線LANカード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1) PCカードを使う前に

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE II / III対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よく確認してください。

スロット1にTYPE IIIのPCカードを取り付けたときは、スロット0にPCカードを取り付けることはできません。

使用スロット：0（上側）	TYPE II
使用スロット：1（下側）	TYPE II / III

お願い

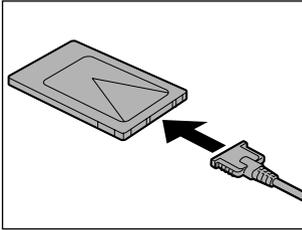
- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

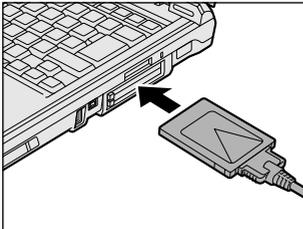
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

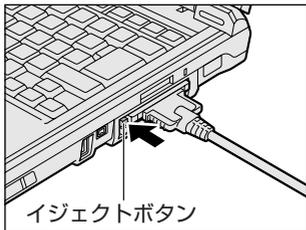
お願い

取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

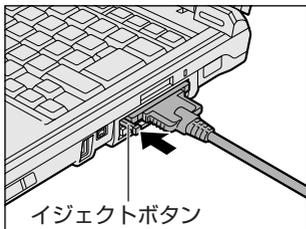
- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



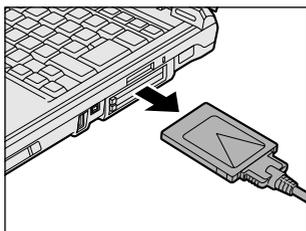
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう 1 度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

4 USB 対応機器を接続する

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

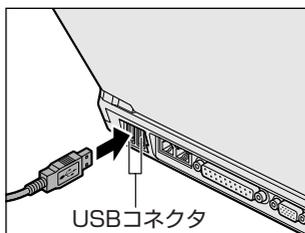
お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

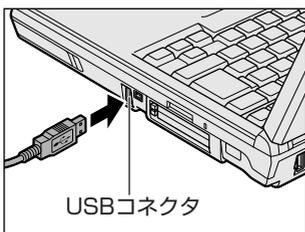
1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

【背面】



プラグの向きを確認して差し込んでください。

【右側面】



2 USBケーブルのもう一方のプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

5 プリンタを接続する

PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続すると、印刷ができます。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。接続や設定についての詳細は『プリンタに付属の説明書』を確認してください。

➡ 参照 USB 対応機器について「本章 4 USB 対応機器を接続する」

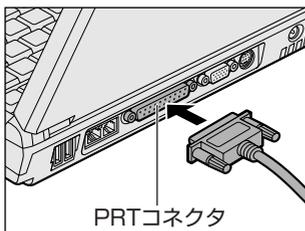
1 プリンタの接続と設定

プリンタの取り付け／取りはずしと、設定方法について説明します。

1 取り付け

PRT コネクタに接続する場合、プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

1 プリンタケーブルのプラグを PRT コネクタに差し込む



2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む

プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

2 プリンタの設定

【ドライバをインストールする】

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、プリンタに添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

プラグアンドプレイに対応している場合は、初めてプリンタを接続すると [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

プラグアンドプレイに対応していない場合は [プリンタの追加ウィザード] を起動するか、『プリンタに付属の説明書』を読んで、インストールを行ってください。

[プリンタの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [プリンタを追加する] をクリックする

【プリンタポートモードの設定】

使用するプリンタに合わせてプリンタモードの設定が必要です。

1 BIOS セットアップを起動する

 参照 → BIOS セットアップの起動方法「7章 2-①-1 起動方法」

2 [詳細] メニューの [モード] を使用するプリンタにあったモードに設定する

- ECP ECP に対応しています。プリンタポートが双方向の設定において、ECP プリンタで障害が発生した場合には ECP 設定に変更してください。
- 双方向 (標準値) ... 双方向に設定します。大半のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。
- ノーマルモード 本製品ではサポートしていません。
- EPP 本製品ではサポートしていません。

3 取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く
使用しているプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。

6 テレビを接続する

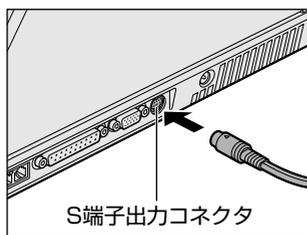
本製品のS端子出力コネクタとテレビをS端子ケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

S端子出力コネクタは、ワイドテレビでアスペクト比（画面の縦・横の比）の異なった映像を自動的に識別する機能を持つ接続端子です。

接続するS端子ケーブルは、4ピンコネクタのケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 S端子ケーブルのプラグをパソコン本体のS端子出力コネクタに差し込む



- 2 S端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビのS1/S2映像入力端子に差し込む

2 テレビに表示する

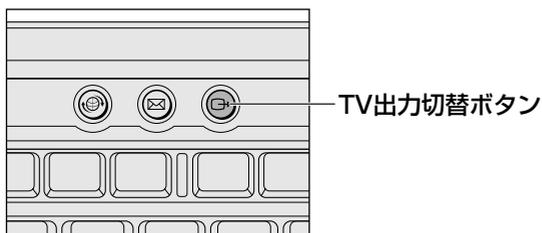
テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えしないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えしないでください。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

【方法1—TV出力切替ボタンを使う】

TV出力切替ボタンを押すと、表示装置がテレビに切り替わります。



もう1度TV出力切替ボタンを押すと、内部液晶ディスプレイに表示が切り替わります。

【方法2—画面のプロパティで設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [nView] タブで次のいずれかに設定する



●内部液晶ディスプレイだけに表示

- ① [nView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [デジタルディスプレイ] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

●内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2 : アナログディスプレイ] を選択する
- ③ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ④ [適用] ボタンをクリックする
- ⑤ もう1度 [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [詳細] を選択する
- ⑥ テレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑦ [OK] ボタンをクリックする

●テレビだけに表示

- ① [nView] モードで [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

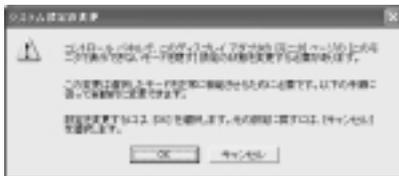
5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【方法3— (Fn) + (F5) キーを使う】

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置がLCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn) + (F5) キーを3秒間押し続けると、表示装置がLCDに戻ります。これは最初に(Fn) + (F5) キーを押したときのみ有効です。



* 画面はテレビとディスプレイを接続した場合です。
接続している表示装置のアイコンのみ表示されます。

- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
CRTディスプレイが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。
- CRT CRTディスプレイだけに表示
CRTディスプレイが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。
- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
[画面のプロパティ] で [ディファレントリフレッシュレート] をチェック (☑) したときだけ有効になります。
テレビが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。
- TV テレビだけに表示
テレビが接続されていない場合、このアイコンは表示されません。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows のログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザの切り替え] で切り替えた場合は、(Fn) + (F5) キーで表示装置を切り替えられません。

参照 → ユーザアカウントの切り替え

『基本をマスター 4章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるS端子ケーブルを抜く

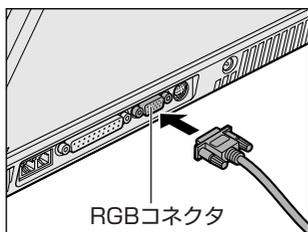
7 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

1 CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力ユーティリティで表示自動停止機能を設定して CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合を参考に [nView] タブの [デバイス設定] で「アナログ ディスプレイ」を選択してください。

▶ 参照 ▶ テレビ接続について「本章 6-2 テレビに表示する」

3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

▶ 参照 ▶ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

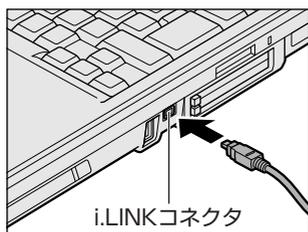
お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取り付けなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。
- 取りはずすときは、i.LINK 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

- MO ドライブなど、記憶装置の i.LINK 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK 機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

※デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE 1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

9 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

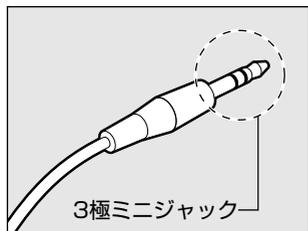
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品では、モノラル録音のみできます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

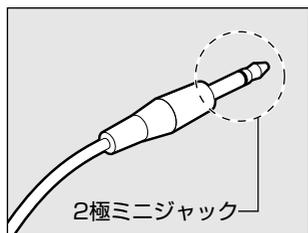
▶ 参照 サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



プラグは3.5mm φ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。



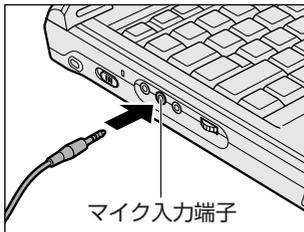
3.5mm φ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

▶ 参照 アプリケーションの問い合わせ先について
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2) ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

 サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」

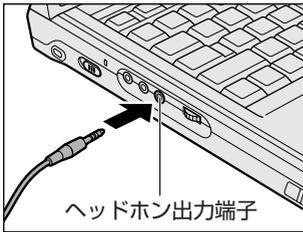
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsの「ボリュームコントロール」で調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

3 オーディオ機器

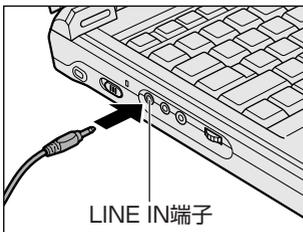
LINE IN 端子には、オーディオ機器を接続できます。

1 LINE IN 端子への接続

市販のオーディオケーブルを使用してください。

オーディオケーブルのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

1 ケーブルのプラグをパソコン本体の LINE IN 端子に差し込む



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE OUT 端子に差し込む

10 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大1GBまでです。

増設メモリは、本製品で動作が保証されている次のものを使用してください。

容量	型番
128MB	PAME128X（タイプX）
256MB	PAME256X（タイプX）
512MB	PAME512X（タイプX）

動作確認されている上記以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

注意

- ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、または東芝PC集中修理センタに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

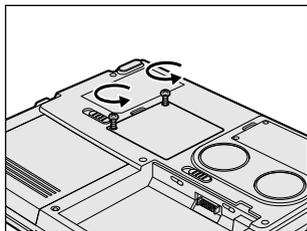
- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはさず際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

静電気について

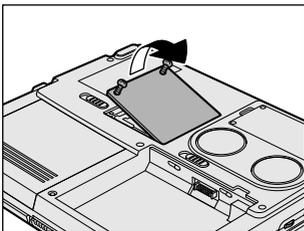
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

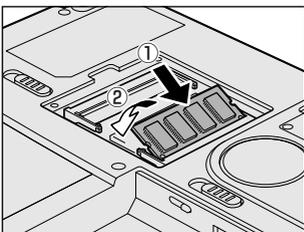
- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類ははずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
参照▶ バッテリーパックの交換 [5章 1-④ バッテリーパックを交換する]
- 4 増設メモリカバーのネジをゆるめる



5 増設メモリカバーをはずす

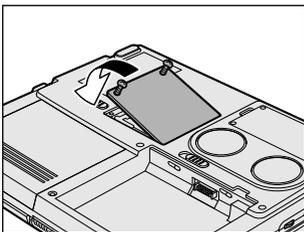


6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



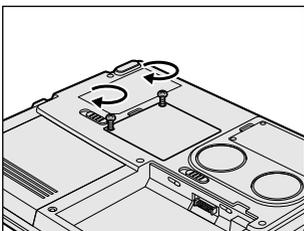
増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

7 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順4でゆるめたネジをしめる



9 バッテリーパックを取り付ける

参照 ▶ バッテリーパックの交換 [5章 1-3 ▶ バッテリーパックを交換する]

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

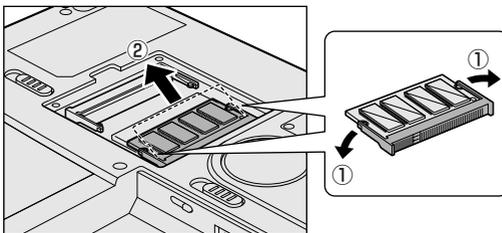
参照 → メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 → バッテリーパックについて「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモリカバーのネジをゆるめる
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

- 7 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。
- 8 手順 4 でゆるめたネジをしめる
- 9 バッテリーパックを取り付ける

参照 → バッテリーパックについて「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 → メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「システムのプロパティ」で確認することができます。

「システムのプロパティ」では、オペレーティングシステムのバージョンやCPUの種類についても確認できます。

【確認方法】

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [コンピュータの基本的な情報を表示する] をクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [全般] タブでRAMの数値を確認する

5章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 172
 - 2 省電力の設定をする 179
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 186

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー(TOSHIBA バッテリーパック:PABAS031)をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

警告

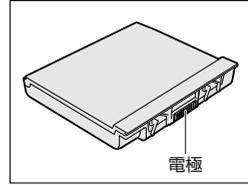
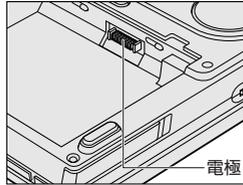
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
東芝 PC 集中修理センタに点検を依頼してください。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

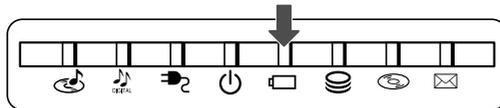


1) バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーが接続されていない (ACアダプタ使用中) ・ バッテリー異常 (ACアダプタ使用中)

2 通知領域の「省電力」アイコンで確認する

通知領域の「省電力」アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。



 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や「省電力」アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの減少を示しています)
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの「アラーム」タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が緑色に点灯)	約 24 時間
電源 OFF (Power  LED が消灯)	約 24 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらず充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【充電完了までの時間】

状態	充電時間
電源 ON	約 3.5 ～ 12 時間以上
電源 OFF	約 3.5 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【使用できる時間】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	動作時間
JEITA 測定法 1.0	約 2 時間

【バッテリー駆動時の処理速度】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス処理など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために AC アダプタを接続してご使用ください。

2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

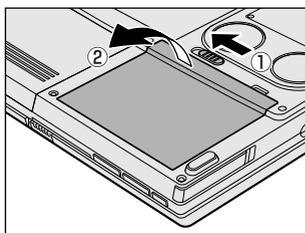
3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け/取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

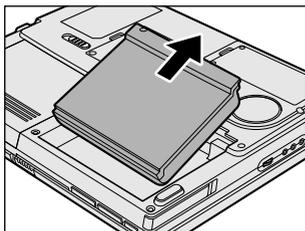
1 取りはずし/取り付け

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- 3 [電源を切る] をクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリー・リリースラッチを奥までスライドさせる①

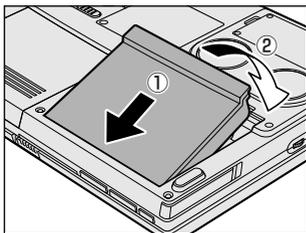


バッテリーパックが持ち上がります②。

- 7 バッテリーパックをパソコン本体から取り出す



8 交換するバッテリーパックをコネクタの位置に合わせて斜めに挿入し①、 静かに差し込む②



新しいあるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。

バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、カチッという音がします。

2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 省電力ユーティリティの起動方法

- 1 【コントロールパネル】を開き、【パフォーマンスとメンテナンス】をクリックする
- 2 【東芝省電力】をクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

2 【省電力】タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



【電源に接続】【バッテリーを使用中】

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。【電源に接続】【バッテリーを使用中】はACアダプタ接続／バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続] (ACアダプタを使用するとき) がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中] (バッテリー駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 6 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[コピー ~] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[キャンセル] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている5つの省電力モードを削除することはできません。

3 【アラーム】 タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。



4 【アドバンスド】 タブ

省電力アイコンの通知領域への表示、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作、CPUが高温になったときの冷却方式を設定します。



【オプション】

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

チェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【 休止状態から復帰するときにパスワードを求める 】

チェックする () と、Windows のパスワードを設定している場合には、スタンバイまたは休止状態から復帰するときに Windows パスワードの入力が必要になります。

【 休止状態をサポートする 】

チェックする () と、休止状態を有効にします。

【 ポータブルコンピュータのふたを開いたとき、自動的に復帰する 】

チェックする () と、[電源ボタン] の [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] または [休止状態] に設定し、ディスプレイを閉じて作業を中断した場合、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

バッテリー駆動時に休止状態になった場合、この項目をチェックしていても、ディスプレイを開いて自動的に復帰させることはできません。電源スイッチを押して復帰させてください。

【電源ボタン】

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。
Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

自動的にスタンバイが実行されるとき

購入時の設定のまま、ACアダプタを電源に接続して30分以上放置した場合、システムはスタンバイを実行します。

この場合、スタンバイからの復帰時に、ネットワーク関係のアプリケーションが正常に動作しないことがあります。その場合は、もう1度ネットワークにログインし直してください。「東芝省電力ユーティリティ」でスタンバイを無効に設定しておくこと、自動的にスタンバイが実行されることはありません。

ただし、設定を変更すると国際エネルギースタープログラム規格の基準を満たせなくなります。

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

[CPU 熱制御]

CPU 熱制御に対する省電力制御の方式を選択します。

【最速】

コンピュータ内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。

【中速】

コンピュータ内部の温度が上昇したときに、[最速] と [静寂] の中間的な方法で冷却します。

【 静寂 】

コンピュータ内部の温度が上昇したときに、主にCPUの速度を落として冷却します。[中速]より消費電力は少なくなります。

5 【電源情報詳細】 タブ

バッテリー残量などのバッテリー情報を表示します。バッテリー残量は目安です。



6 省電力モードの詳細設定

- 1 [2]の【省電力】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。

【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、内部液晶ディスプレイの輝度、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、スタンバイや休止状態までの時間を設定します。[バッテリー使用中] の場合は、バッテリー残容量が0～25%、26～50%、51～75%、76～100%の状態ごとに、各項目を設定できます。

CPU やシステムの状態によっては、設定された時間どおりに移行しない場合があります。

7 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

 複数のユーザで使用する場合
『基本をマスター 4章 Windows のユーザ設定』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 「東芝省電力ユーティリティ」を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

スタンバイまたは休止状態を実行するには、あらかじめ設定しておく必要があります。

参照▶ スタンバイ、休止状態について「本章 2 省電力の設定をする」

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
 - ・スタンバイ中にバッテリーパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押し続けて電源を切った後、もう1度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（Resume Failureで立ち上がります）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリおよび周辺機器の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する場合は、DVD-RAMメディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行した場合、データが正しく書き込まれないことがあります。DVD-RAMメディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

2) 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

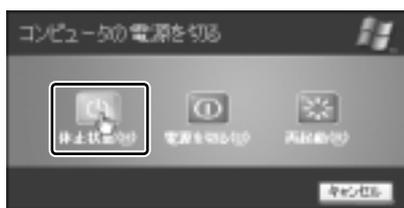
- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [アドバンスド] タブの [オプション] で [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (Shift)キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift)キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アドバンスド] タブの [電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

2 ディ스플레이を閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アドバンスド] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [休止状態] [スタンバイ] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 ディ스플레이を閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

6章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを使う前に 192
 - 2 アプリケーションを追加（インストール）する 194
 - 3 アプリケーションを削除（アンインストール）する 195

1 アプリケーションを使う前に

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで使用できる Windows XP では、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

▶ 参照 複数のユーザで使用する場合について

『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○*1		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○*2
Drag'n Drop CD + DVD	○		○*3	○
LaLaVoice	○*4		○	○
デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)		○		○*2
MotionDV STUDIO		○		○*2
DVDfunSTUDIO		○		○*2
DVD-MovieAlbum		○		○*2
InterVideo WinDVD	○			○
プロアトラス W for TOSHIBA		○	○	○*2
駅すばあと	○			○
ekitanExpress Online	○		○	○
筆ぐるめ		○		○*2
Liquid View	○		○	○
Norton Internet Security	○		○	○
東芝省電力ユーティリティ		○	○	—*5
Bluetooth 東芝ユーティリティ		○		○*2
イージーボタン ユーティリティ	○		○	○
ConfigFree		○		○*2

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
いきなりインターネット (infoPepper)		○		○ *2
AOL	○			○
DION かんたん設定ツール		○	○	○ *2
OCN サインアップ		○		
@nifty でインターネット		○		○ *2
ODN ダイアルアップ スターターキット	○		○ *6	○
DreamNet		○	○	
BIGLOBE サインアップナビ	○			○
TTNet	○		○	○
かるがるネット		○		

- * 1 制限付きアカウントはダイアル方式の設定はできません。
- * 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。
- * 3 CD への書き込みは、複数のユーザが同時に行うことはできません。
- * 4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。
- * 5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。
- * 6 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

2 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。ここでは [プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

3 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCD-ROMから、再インストールして使用することができます。

▶ **参照** 再インストールについて『困ったときは 4章 再セットアップ』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 198
 - 2 BIOS セットアップを使う 199

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「デバイスマネージャ」「東芝省電力ユーティリティ」などがあります。

 [東芝省電力ユーティリティについて「5章 2 省電力の設定をする」](#)

BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

2 BIOS セットアップを使う

^{バイオス}BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続コネクタ）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。
BIOS セットアップとWindows上の設定が異なる場合、Windows上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動方法

1 電源を入れた直後（起動時）に(F2)キーを押す

起動時に、「DynaBook」画面が表示されます。

目安として、この画面表示中に(F2)キーを押します。

パスワードを設定している場合は、登録したパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

参照 ▶ パスワードについて「本節 ② パスワードの設定」

BIOS セットアップが起動します。

起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順1をやり直してください。

2 基本操作

基本操作は次のとおりです。

メニューを選択する	←または→ 上段のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。
変更したい項目を選択する	↑または↓ 画面の中で反転している部分が現在変更できる項目です。
サブメニューや設定値の一覧を表示する	Enter
項目の内容を変更する	Space、F5、F6
設定内容を標準値にする	F9 「デフォルト値をロードしますか？」というメッセージが表示されます。「はい」を選択し、Enterキーを押してください。 パスワードはこの操作をしても削除されません。
設定を保存し、BIOS セットアップを終了する	F10 BIOS セットアップ終了後、Windows が起動します。
[終了] メニューを表示する	Esc サブメニュー表示中は 1 つ前の画面に戻ります。
BIOS セットアップのヘルプを表示する	F1

以上のキー操作で、各項目を設定してください。

3 終了方法

- 1 [終了] メニューを表示する
- 2 終了方法を選択する
- 3 **Enter** キーを押す

BIOS セットアップが終了し、Windows が起動します。

2) パスワードの設定

パスワードは、BIOS セットアップの [セキュリティ] メニューで設定します。パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの2種類あり、ユーザパスワードを入力して BIOS セットアップを起動すると、設定（変更）できる項目が制限されます。

パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 パスワードの登録

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 [セキュリティ] メニューを表示する
パスワードが登録されている場合は、[ユーザパスワードは] または [スーパーバイザパスワードは] に「設定」と表示されます。
- 3 カーソルバーを [ユーザパスワード設定] または [スーパーバイザパスワード設定] に合わせ、**Enter** キーを押す
スーパーバイザパスワードが設定されていないと、ユーザパスワードの設定はできません。
パスワード設定画面が表示されます。

4 [新しいパスワードを入力して下さい。] にパスワードを入力する

パスワードは8文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、次のとおりです。

パスワードは画面で確認できません。よく確認してから入力してください。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない (入力するときに Shift キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など ・ ¥ (エン)  キーや  キーを押すと ¥ が入力されます。	

5 **Enter** キーを押す

[新しいパスワードを確認して下さい。] にカーソルバーが移動します。

6 もう1度新しいパスワードを入力する

パスワードは手順4と同じパスワードを入力してください。

7 **Enter** キーを押す

[セットアップ通知] 画面が表示されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。

Enter キーを押して、手順4からやり直してください。

8 **Enter** キーを押す

パスワードが設定され、登録した [ユーザパスワードは] または [スーパーバイザパスワードは] に「設定」と表示されます。

2 パスワードの変更/削除

1 BIOS セットアップを起動する

2 [セキュリティ] メニューを表示する

- 3 カーソルバーを、削除する [ユーザパスワード設定] または [スーパバイザパスワード設定] に合わせ、**(Enter)** キーを押す
- 4 [現在のパスワードを入力して下さい。] に登録してあるパスワードを入力する
パスワードは画面で確認できません。
- 5 **(Enter)** キーを押す
入力したパスワードが登録されているパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。**(Enter)** キーを押してもう1度入力してください。
パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの入力ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。
- 6 [新しいパスワードを入力して下さい。] に新しいパスワードを入力する
パスワードを削除する場合は、何も入力しません。
- 7 **(Enter)** キーを押す
- 8 [新しいパスワードを確認して下さい。] に手順6と同じパスワードを入力する
パスワードを削除する場合は、何も入力しません。
入力したパスワードが手順6で入力したパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。**(Enter)** キーを押して手順6からやり直してください。
- 9 **(Enter)** キーを押す
[セットアップ通知] 画面が表示されます。
- 10 **(Enter)** キーを押す
パスワードが変更されます。
新しいパスワードを入力しなかった場合はパスワードが削除され、[ユーザパスワードは] または [スーパバイザパスワードは] に「クリア」と表示されます。
スーパバイザパスワードを削除すると、ユーザパスワードも同時に削除されます。

3 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、東芝 PC 集中修理センタに相談してください。パスワードの解除を東芝 PC 集中修理センタに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 パスワードの入力

パスワードが設定されている場合、BIOS セットアップを起動するとパスワード入力画面が表示されます。

この場合は、次の手順を行ってパソコン本体を起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

 **参照** パスワードを忘れた場合「本項 3 パスワードを忘れてしまった場合」

メモ

ここで設定したパスワードは、BIOS セットアップを起動する場合にのみ使用します。インスタントセキュリティ状態を解除する場合は Windows のログオンパスワードを使用します。

付録

本製品のハードウェア仕様や技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 206
 - 2 技術基準適合について 211
 - 3 Bluetooth について 223

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種		DynaBook P8/X28PDE
型番		PAP8X28PDE
プロセッサ		Intel® Pentium®4 プロセッサ 2.8GHz
チップセット		Intel® 845PE
メモリ	ROM	512KB (フラッシュROM) 、 ACPI 1.0b
	RAM (標準/最大)	256MB/1GB (PC2100対応DDR SD-RAM)
	ビデオRAM	32MB
表示機能	表示装置	15型SXGA+ TFTカラーClear SuperView液晶
	グラフィック表示	横1400 x 縦1050 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー (文字キー、制御キーの合計)
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵 (スクロールボタン付き)
補助記憶装置	SDメモ리카ードスロット	1個装備
	2.5型ハードディスク ドライブ	1台内蔵 (UltraATA100対応) 60GB
	DVDマルチドライブ	1台内蔵 CD-ROM : 最大24倍速 CD-R 書き込み : 最大16倍速 読み出し : 最大24倍速 CD-RW (マルチスピード) 書き換え : 最大4倍速 読み出し : 最大12倍速 High-Speed対応CD-RW 書き換え : 最大8倍速 読み出し : 最大12倍速 DVD-ROM : 最大8倍速 DVD-R 書き込み : 等倍速 読み出し : 最大4倍速 DVD-RW 書き換え : 等倍速 読み出し : 最大4倍速 DVD-RAM 書き換え : 2倍速 読み出し : 最大2倍速 8cm、12cmのディスク対応 マルチセッション
	3.5型フロッピー ディスクドライブ	外付けUSB接続 2DDまたは2HDフロッピーディスクを使用 1.44MB、1.2MB (2HD) / 720KB (2DD)
インタ フェース	プリンタ	1個装備 (ECP)
	RGB	1個装備
	USB	3個装備 USB1.1/2.0対応
	i.LINK (IEEE1394)	1個装備 (S400・4ピン)

インタフェース	PCカード	2個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 2、またはTYPE III x 1) CardBus対応
	サウンド	ライン入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備
	ビデオ	S端子出力 1個装備
	Bluetooth通信機能	1個装備 Bluetooth Specification Ver.1.1準拠
通信機能	モデム	1個装備 データ：最大56kbps (V.90対応、ボイスレス、世界58地域 対応) FAX：最大14.4kbps
	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V~240V (50Hz、または60Hz)
	バッテリー	バッテリーパック Li-Ion 14.8V/6450mAh
最大消費電力		約90W
使用環境条件		温度：5℃~35℃ 湿度：20%~80%Rh
外形寸法 (突起部除く)		332.4 (幅) x 280 (奥行) x 45.3 (高さ) mm
質量		約3.5kg

【電源コードとACアダプタの仕様について】

電源コードの仕様

本製品に同梱されている電源コードは、日本の安全規格・法令に適合しています。その他の地域で使用する場合は、当該地域の安全規格・法令に適合した電源コードを現地で購入のうえ、お使いください。

使用できる電圧 (AC) は 100V です。

必ず AC100V のコンセントで使用してください。

ACアダプタの仕様

本製品に同梱されている AC アダプタは、海外でも使用できます。

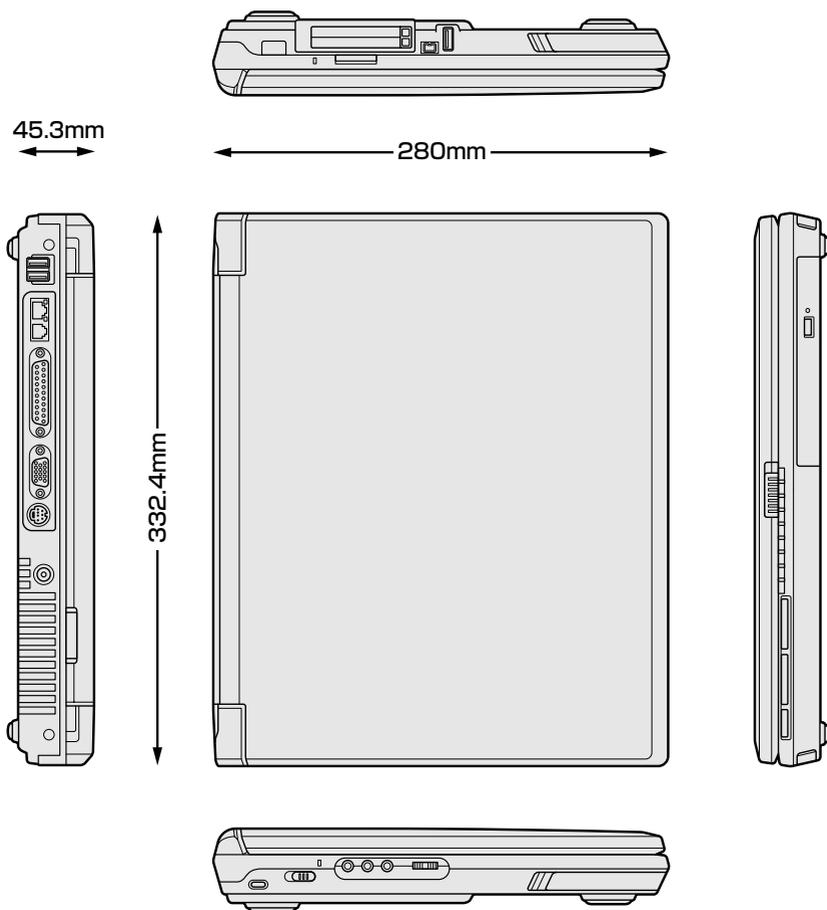
AC アダプタの仕様は次のとおりです。

入力：AC100V~240V、~1.5A、50/60Hz

出力：19V、4.74A

2 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について「1章 5-①-1 表示可能色数」

本製品では次のビデオモードをサポートしています。

16ビット色 (65,536色)		32ビット色 (1,677万色)	
解像度	リフレッシュレート(Hz)	解像度	リフレッシュレート(Hz)
800 x 600	60	800 x 600	60
	70		70
	72		72
	75		75
	85		85
	100		100
	120		120
1024 x 768	60	1024 x 768	60
	70		70
	72		72
	75		75
	85		85
	100		100
	120		120
1280 x 1024*1	60	1280 x 1024*1	60
	70		70
	72		72
	75		75
	85		85
	100		100
	120		120
1400 x 1050	60	1400 x 1050	60
	70		70
	72		72
	75		75
	85		85
	100		—
	—		—
1600 x 1200*1	60	1600 x 1200*1	60
	70		70
	72		72
	75		75
	85		85
	100		—

16ビット色 (65,536色)		32ビット色 (1,677万色)	
解像度	リフレッシュレート(Hz)	解像度	リフレッシュレート(Hz)
1920 x 1440*1	60	1920 x 1440*1	60
	70		—
	72		—
	75		—
2048 x 1536*1	60	2048 x 1536*1	60

* 1：内部液晶ディスプレイでは仮想ディスプレイでの対応となります。

注 1) リフレッシュレートは外部ディスプレイのみに適応しています。

注 2) 1,677万色はデザイン表示です。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



- メモリマップ : [メモリ]
I/Oポートマップ : [I/O]
IRQ使用リソース : [IRQ]
DMA使用リソース : [DMA]

2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



 省電力設定について 「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : DynaBook P8 series

Model number : PAP8X28PDE

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, PRT connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PAP8***** conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年5月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

参照 → 関連情報は《サイバーサポート》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1 **NOTICE** : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
 - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
 - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
 - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
 - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
 - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
 - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic DVD-RAM ドライブ UJ-810B (DVD マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.

VORSICHT

EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

ADVARSEL

SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG. WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.

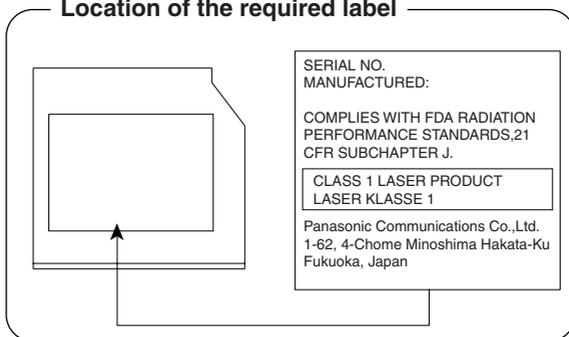
WARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

VARO!

NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESIN.

Location of the required label



3 Bluetooth について

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver. 1.1
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	最大通信速度	約720kbps (非対称型通信時) 約430kbps (対称型通信時)
	出力 ^{※1}	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度 ^{※1}	-70dBm
	通信距離	見通し10m ^{※2}
電源電圧	3.3V	
消費電流	最大200mA	

※1 アンテナの効率は含まれません。

※2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 5 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広がります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™ 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

【ステッカー】

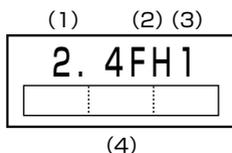
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーを PC 本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) FH : 変調方式が FH-SS 方式であることを示す。
- (3) 1 : 想定される与干渉距離が 10m 以下であることを示す。
- (4) □ □ □ □ : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝 PC ダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

4 機器認定表示について

本製品には、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときには無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYXF2CS

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1305

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 ユーザに対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.1.1
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

お願い

本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。

ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 1.1 仕様に準拠しております。
Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

IC : 248H-DPA3232B

Caution

FCC Interference Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution

Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are located on top of LCD distance of 20 cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

NOTE : Changes or modifications made to this equipment not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

総合さくいん

(記号)	.NET Passport	『基本をマスター』 102
	 キーを使ったショートカットキー	『応用ガイド』 33
(A)	ACアダプタの仕様	『応用ガイド』 19
	Alt キー	『応用ガイド』 28, 29
	Arrow Mode LED	『応用ガイド』 29, 30
(B)	BackSpace キー	『応用ガイド』 29
	Battery LED	『応用ガイド』 21
	BCC	『基本をマスター』 67
	BIOS セットアップ	『応用ガイド』 199
	Bluetooth Manager	『応用ガイド』 126
	Bluetooth SIG	『応用ガイド』 123
	Bluetooth 機能を使う	『応用ガイド』 122
	Bluetooth 設定	『応用ガイド』 127
	Bluetooth 東芝ユーティリティ	『応用ガイド』 125
	Bluetooth について	『応用ガイド』 223
(C)	Caps Lock LED	『応用ガイド』 28, 30
	Caps Lock 英数キー	『応用ガイド』 28
	CC	『基本をマスター』 67
	CD/DVD モード LED	『応用ガイド』 21
	CD-ROM LED	『応用ガイド』 21
	CD のセット	『基本をマスター』 15
	CD の取り扱い	『応用ガイド』 60
	CD の取り出し	『基本をマスター』 16
	ConfigFree	『応用ガイド』 118
	CRT ディスプレイを接続する	『応用ガイド』 160
	Ctrl キー	『応用ガイド』 28, 29
	CyberSupport for TOSHIBA	『困ったときは』 14
(D)	DC IN LED	『応用ガイド』 21
	Del キー	『応用ガイド』 29
	Disk LED	『応用ガイド』 21
	DMA 使用リソース	『応用ガイド』 210
	Drag'n Drop CD+DVD	『応用ガイド』 77
	『困ったときは』 30
	DVD-MovieAlbum	『応用ガイド』 92
	DVD-RAM Driver Software	『応用ガイド』 56
	DVD-Video を観る	『応用ガイド』 83

	DVDfunSTUDIO	『応用ガイド』 92
	DVD のセット	『基本をマスター』 15
	DVD の取り扱い	『応用ガイド』 60
	DVD の取り出し	『基本をマスター』 16
	dynabook.com	『困ったときは』 17
(E)	Enter キー	『応用ガイド』 29
	Esc キー	『応用ガイド』 28
(F)	FAT32	『応用ガイド』 58
	Fn キー	『応用ガイド』 28
	Fn キーを使った特殊機能キー	『応用ガイド』 31
(H)	HTML 形式	『基本をマスター』 65
(I)	i.LINK コネクタ	『応用ガイド』 18
	i.LINK 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 162
	i.LINK 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 162
	i.LINK 対応機器を接続する	『応用ガイド』 161
	i.LINK によるネットワーク接続	『応用ガイド』 162
	I/O ポートマップ	『応用ガイド』 210
	IEEE 1394 コネクタ	『応用ガイド』 18
	IEEE 1394 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 162
	IEEE 1394 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 162
	IEEE 1394 対応機器を接続する	『応用ガイド』 161
	IME パッド	『基本をマスター』 32
	Ins キー	『応用ガイド』 29
	Internet Explorer	『基本をマスター』 44
	Internet Explorer 画面	『基本をマスター』 45
	Internet Explorer の起動	『基本をマスター』 44
	Internet Explorer の終了	『基本をマスター』 46
	InterVideo WinDVD	『応用ガイド』 83
	IRQ 使用リソース	『応用ガイド』 210
(L)	LAN 機能	『応用ガイド』 116
	LAN ケーブルの接続	『応用ガイド』 116
	LAN コネクタ	『応用ガイド』 18
	LAN コネクタに関するインジケータ	『応用ガイド』 117
	LAN へ接続する	『応用ガイド』 116

	LINE IN 端子	『応用ガイド』 16
	LINE IN 端子への接続	『応用ガイド』 165
(M)	Microsoft IME スタンドアードのプロパティ	『基本をマスター』 24
	Microsoft Outlook	『基本をマスター』 83
	Microsoft Outlook 画面	『基本をマスター』 84
	Microsoft Outlook の起動	『基本をマスター』 83
	Microsoft Outlook の終了	『基本をマスター』 89
	Microsoft Outlook のバックアップ	『困ったときは』 40
	MotionDV STUDIO	『応用ガイド』 92
	MS-DOS の起動ディスクを作成する	『応用ガイド』 145
(N)	Norton AntiVirus	『困ったときは』 27
	Norton Internet Security	『困ったときは』 26
	Numeric Mode LED	『応用ガイド』 29, 30
(O)	Outlook Express	『基本をマスター』 60
	Outlook Express 画面	『基本をマスター』 61
	Outlook Express の起動	『基本をマスター』 60
	Outlook Express の終了	『基本をマスター』 62
	Outlook Express のバックアップ	『困ったときは』 37
	Outlook Plus!	『基本をマスター』 90
(P)	Pause キー	『応用ガイド』 29
	PC カードスロット	『応用ガイド』 18
	PC カードの取り付け	『応用ガイド』 149
	PC カードの取りはずし	『応用ガイド』 149
	PC カードを接続する	『応用ガイド』 148
	Power LED	『応用ガイド』 21
	PrtSc キー	『応用ガイド』 29
	PRT コネクタ	『応用ガイド』 18
(R)	RGB コネクタ	『応用ガイド』 18
(S)	SD Card LED	『応用ガイド』 61
	SD メモリカード	『応用ガイド』 61
	SD メモリカードスロット	『応用ガイド』 18
	SD メモリカードのセット	『応用ガイド』 62
	SD メモリカードの取り扱い	『応用ガイド』 64
	SD メモリカードの取り出し	『応用ガイド』 62

	Shift キー	『応用ガイド』 28, 29
	Space キー	『応用ガイド』 28
	S 端子ケーブルの取り付け	『応用ガイド』 155
	S 端子ケーブルの取りはずし	『応用ガイド』 159
	S 端子出力コネクタ	『応用ガイド』 18
(T)	Tab キー	『応用ガイド』 28
	TFT 方式カラー液晶ディスプレイ	『応用ガイド』 41
	TV 出力切替ボタン	『応用ガイド』 17
(U)	UDF1.5	『応用ガイド』 57
	UDF2.0	『応用ガイド』 57
	USB コネクタ	『応用ガイド』 18
	USB 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 151
	USB 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 152
	USB 対応機器を接続する	『応用ガイド』 151
(V)	VR Writer	『応用ガイド』 112
(W)	Windows Media Player	『応用ガイド』 68, 73
	Windows のネットワーク設定	『応用ガイド』 117
(ア)	宛先	『基本をマスター』 67
	アドレス	『基本をマスター』 47
	アドレス帳のバックアップ (Outlook Express)	『困ったときは』 38
	アドレス帳を使う (Outlook Express)	『基本をマスター』 79
	アプリケーション CD-ROM	『困ったときは』 77, 83
	アプリケーションキー	『応用ガイド』 29
	アプリケーションを起動する	『基本をマスター』 34
	アプリケーションを削除する	『応用ガイド』 195
	アプリケーションを終了する	『基本をマスター』 34
	アプリケーションを追加する	『応用ガイド』 194
	アプリケーションを使う前に	『応用ガイド』 192
	アロー状態	『応用ガイド』 30
	アンインストール	『応用ガイド』 195
(イ)	イージーボタンユーティリティ	『応用ガイド』 26
	イジェクトホール	『基本をマスター』 16
	イジェクトボタン	『基本をマスター』 16
	インスタントセキュリティ機能	『応用ガイド』 31

	インストール	『応用ガイド』 194
	インターネットボタン	『応用ガイド』 17
(ウ)	ウィンドウ	『基本をマスター』 17
	ウィンドウズキー	『応用ガイド』 28
	ウィンドウの色を変える	『応用ガイド』 45
	ウィンドウの大きさを変える	『基本をマスター』 18
	ウィンドウを移動する	『基本をマスター』 19
	ウィンドウを閉じる	『基本をマスター』 19
	ウィンドウを開く	『基本をマスター』 18
(エ)	英数字を入力する	『基本をマスター』 28
	映像データをDVDに書き込む	『応用ガイド』 105
	映像データをパソコンに取り込む	『応用ガイド』 94
	映像データを編集する	『応用ガイド』 97
	液晶ディスプレイの取り扱い	『応用ガイド』 46
(オ)	オーディオ機器	『応用ガイド』 165
	オーディオプレイボタン	『応用ガイド』 17
	オートスクロール	『応用ガイド』 40
	オーバレイキー	『応用ガイド』 29
	大文字ロック状態	『応用ガイド』 30
	[お気に入り] からホームページを表示する	『基本をマスター』 51
	[お気に入り] に登録する	『基本をマスター』 49
	[お気に入り] のバックアップ	『困ったときは』 36
	[お気に入り] を整理する	『基本をマスター』 52
	オプションの設定 (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 86
	オプションの設定 (Outlook Express)	『基本をマスター』 63
	オリジナル音楽CDを作る	『応用ガイド』 77
	オリジナルDVDを作る	『応用ガイド』 92
	音楽CDを聴く	『応用ガイド』 68
	音楽ファイルを聴く	『応用ガイド』 72
(カ)	海外でインターネットに接続する	『応用ガイド』 136
	外形寸法図	『応用ガイド』 208
	回線切換器	『応用ガイド』 136
	解像度を変更する	『応用ガイド』 44
	書き込み可能状態 (SDメモ리카ード)	『応用ガイド』 63
	書き込み可能状態 (フロッピーディスク)	『応用ガイド』 144

	書き込み禁止状態 (SDメモ리카ード)	『応用ガイド』 63
	書き込み禁止状態 (フロッピーディスク)	『応用ガイド』 144
	各部の名前	『応用ガイド』 16
	カタカナ／ひらがなキー	『応用ガイド』 29
	カタカナを入力する	『基本をマスター』 26
	カテゴリ	『応用ガイド』 116
	かな入力	『基本をマスター』 23
	壁紙を変える	『応用ガイド』 43
	漢字を入力する	『基本をマスター』 25
(キ)	キーシフトインジケータ	『応用ガイド』 30
	キーボード	『応用ガイド』 16
	キーボードの取り扱い	『応用ガイド』 34
	記号を入力する	『基本をマスター』 27
	逆送りボタン	『応用ガイド』 25
	休止状態	『応用ガイド』 187
(ク)	クイックフォーマット	『応用ガイド』 145
	クリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
	『応用ガイド』 35
	クリック (マウス)	『基本をマスター』 12
(コ)	コントロールパネル	『困ったときは』 20
	ごみ箱	『基本をマスター』 40
(サ)	再起動	『困ったときは』 23
	最小化	『基本をマスター』 20
	[最小化] ボタン	『基本をマスター』 17
	再生／一時停止ボタン	『応用ガイド』 25
	再セットアップ	『困ったときは』 76
	最大化	『基本をマスター』 20
	[最大化] ボタン	『基本をマスター』 17
	サイバーサポート	『困ったときは』 14
	サウンド機能	『応用ガイド』 48
	先送りボタン	『応用ガイド』 25
(シ)	システムインジケータ	『応用ガイド』 16
	システム環境の変更	『応用ガイド』 198
	知っておきたいマナー	『基本をマスター』 91

	周辺機器について	『応用ガイド』 140
	受信したメールを見る (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 88
	受信したメールを見る (Outlook Express)	『基本をマスター』 72
	使用できる CD	『応用ガイド』 52
	使用できる DVD	『応用ガイド』 54
	使用できるフロッピーディスク	『応用ガイド』 143
	使用できるメディアと対応するアプリケーション	『応用ガイド』 51
	省電力モード	『応用ガイド』 179
	省電力モードの削除	『応用ガイド』 180
	省電力モードの作成	『応用ガイド』 180
	署名を入れる (Outlook Express)	『基本をマスター』 68
	新着メールチェック機能	『応用ガイド』 132
(ス)	数字ロック状態	『応用ガイド』 30
	スクリーンセーバを使う	『応用ガイド』 43
	スクロール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	スクロール (マウス)	『基本をマスター』 13
	スクロールバー	『基本をマスター』 17
	スクロールボタン	『応用ガイド』 16
	スタートページ	『基本をマスター』 53
	スタンバイ	『応用ガイド』 187
	スピーカ	『応用ガイド』 16, 18
(セ)	静電気について	『応用ガイド』 167
	製品仕様	『応用ガイド』 206
	セキュリティロック	『応用ガイド』 65
	セキュリティロック・スロット	『応用ガイド』 16
(ソ)	操作メニュー	『基本をマスター』 17
	増設メモリスロット	『応用ガイド』 19
	増設メモリの取り付け	『応用ガイド』 167
	増設メモリの取りはずし	『応用ガイド』 169
(タ)	タイトルバー	『基本をマスター』 17
	ダウンロード	『基本をマスター』 57
	タッチパッド	『基本をマスター』 8
		『応用ガイド』 16
	タッピング	『応用ガイド』 35

	ダブルクリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
	『応用ガイド』 35
	ダブルクリック (マウス)	『基本をマスター』 13
(ツ)	ツールバー	『基本をマスター』 17
	通知領域	『基本をマスター』 20
	通風孔	『応用ガイド』 18, 19
(テ)	停止ボタン	『応用ガイド』 25
	ディザリング表示	『応用ガイド』 41
	ディスクトレイ LED	『基本をマスター』 16
	ディスプレイ	『応用ガイド』 16
	ディスプレイ開閉ラッチ	『応用ガイド』 16
	テキスト形式	『基本をマスター』 65
	デジカメ Walker	『応用ガイド』 89
	デジタルカメラの写真を編集 / 整理する	『応用ガイド』 89
	デジタルビデオカメラの映像を取り込む	『応用ガイド』 94
	デジタルモード LED	『応用ガイド』 21
	デスクトップのテーマを変える	『応用ガイド』 42
	テレビに表示する	『応用ガイド』 155
	テレビを接続する	『応用ガイド』 155
	電源コードの仕様	『応用ガイド』 19
	電源コードの取り扱い	『応用ガイド』 20
	電源コネクタ	『応用ガイド』 18
	電源スイッチ	『応用ガイド』 16
	添付ファイルを開く (Outlook Express)	『基本をマスター』 73
(ト)	東芝 PC 集中修理センタ	『困ったときは』 86
	東芝省電力キューティリティ	『応用ガイド』 179
	特殊機能キー	『応用ガイド』 34
	時計用バッテリー	『応用ガイド』 175
	[閉じる] ボタン	『基本をマスター』 17
	ドライバをインストールする	『応用ガイド』 141
	ドライブ	『応用ガイド』 16, 50
	ドラッグアンドドロップ (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	『応用ガイド』 35
	ドラッグアンドドロップ (マウス)	『基本をマスター』 13
(ナ)	内蔵モデム	『応用ガイド』 136

	内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	『応用ガイド』 136
(ニ)	日本語入力システム MS-IME を起動する	『基本をマスター』 23
	入力に関する制御キー	『基本をマスター』 30
(ハ)	ハードウェアリソース	『応用ガイド』 210
	ハードディスクドライブ	『応用ガイド』 47
	パスワードの削除 (BIOS セットアップ)	『応用ガイド』 202
	パスワードの削除 (Windows)	『基本をマスター』 96
	パスワードの設定 (Windows)	『基本をマスター』 94
	パスワードの登録 (BIOS セットアップ)	『応用ガイド』 201
	パスワードの入力 (Windows)	『基本をマスター』 95
	パスワードの変更 (BIOS セットアップ)	『応用ガイド』 202
	パスワードの変更 (Windows)	『基本をマスター』 96
	パスワードを忘れてしまった場合 (BIOS セットアップ) ..	『応用ガイド』 204
	パソコン本体の取り扱い	『応用ガイド』 20
	バックアップ	『困ったときは』 30
	バックライト用蛍光管	『応用ガイド』 46
	バッテリー	『応用ガイド』 172
	バッテリー駆動での使用時間	『応用ガイド』 176
	バッテリー充電量を確認する	『応用ガイド』 173
	バッテリーの充電完了までの時間	『応用ガイド』 176
	バッテリーの充電方法	『応用ガイド』 175
	バッテリーパック	『応用ガイド』 19
	バッテリーパックの交換方法	『応用ガイド』 177
	バッテリー・リリースラッチ	『応用ガイド』 19
	バッテリーを長持ちさせるには	『応用ガイド』 176
	パネルスイッチ機能	『応用ガイド』 189
	半/全キー	『応用ガイド』 28
(ヒ)	左ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 16
	左ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11
	ビデオモード	『応用ガイド』 209
	表示可能色数	『応用ガイド』 41
	ひらがなを入力する	『基本をマスター』 25
(フ)	ファイル	『基本をマスター』 35
	ファイルの圧縮方法	『基本をマスター』 92

ファイルの解凍方法	『基本をマスター』 92
ファイルのコピー	『基本をマスター』 38
ファイルの作成	『基本をマスター』 36
ファイルの名前を変更する	『基本をマスター』 38
ファイルを削除する	『基本をマスター』 40
ファンクションキー	『応用ガイド』 28
フォーマット (DVD-RAM)	『応用ガイド』 57
フォーマット (SD メモリカード)	『応用ガイド』 64
フォーマット (フロッピーディスク)	『応用ガイド』 144
フォルダ	『基本をマスター』 35
フォルダのコピー	『基本をマスター』 38
フォルダの作成	『基本をマスター』 36
フォルダの名前を変更する	『基本をマスター』 38
フォルダを削除する	『基本をマスター』 40
複数のユーザで使用する	『基本をマスター』 97
プラグアンドプレイ	『応用ガイド』 141
プリンタケーブルの取り付け	『応用ガイド』 153
プリンタケーブルの取りはずし	『応用ガイド』 154
プリンタの設定	『応用ガイド』 153
プリンタを接続する	『応用ガイド』 153
フロッピーディスクドライブ	『応用ガイド』 142
フロッピーディスクドライブの手入れ	『応用ガイド』 147
フロッピーディスクの取り扱い	『応用ガイド』 147
分岐アダプタ	『応用ガイド』 136
文書を保存する	『基本をマスター』 28

(へ) ヘッドホン	『応用ガイド』 164
ヘッドホン出力端子	『応用ガイド』 16
ヘルプの起動 (日本語入力システム MS-IME)	『基本をマスター』 33
ヘルプの起動方法 (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 89
変換キー	『応用ガイド』 29
変換し直す	『基本をマスター』 32
変換の区切りを変える	『基本をマスター』 31

(ホ) ホームページの画像を壁紙に設定する	『基本をマスター』 55
ホームページの画像を保存する	『基本をマスター』 55
ホームページの検索	『基本をマスター』 48
ホームページの表示	『基本をマスター』 47

	ホームページを保存する	『基本をマスター』 54
	ホイール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	ホイール (マウス)	『基本をマスター』 11
	ポインタ	『基本をマスター』 8
	ポインタを動かす (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
	ポインタを動かす (マウス)	『基本をマスター』 12
	ボリュームコントロール	『応用ガイド』 48
	ボリュームダイヤル	『応用ガイド』 16
	本製品の仕様	『応用ガイド』 206
(マ)	マイク入力端子	『応用ガイド』 16
	マイクロホン	『応用ガイド』 163
	マウス	『基本をマスター』 11
(ミ)	右クリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	右クリック (マウス)	『基本をマスター』 13
	右ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 16
	右ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11
(ム)	無変換キー	『応用ガイド』 28
(メ)	メール着信 LED	『応用ガイド』 21
	メールにファイルを添付する (Outlook Express) ..	『基本をマスター』 69
	メールボタン	『応用ガイド』 17
	メールを検索する (Outlook Express)	『基本をマスター』 82
	メールを削除する (Outlook Express)	『基本をマスター』 77
	メールを作成する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 87
	メールを作成する (Outlook Express)	『基本をマスター』 66
	メールを受信する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 88
	メールを受信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 72
	メールを整理する (Outlook Express)	『基本をマスター』 78
	メールを送信する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 88
	メールを送信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 70
	メールを転送する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 88
	メールを転送する (Outlook Express)	『基本をマスター』 76
	メールを返信する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 88
	メールを返信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 75
	メニューバー	『基本をマスター』 17

	メモ帳	『基本をマスター』 22
	メモリマップ	『応用ガイド』 210
	メモリ容量の確認	『応用ガイド』 170
	メモリを増設する	『応用ガイド』 166
(モ)	モード切替ボタン	『応用ガイド』 17, 25
	文字キー	『基本をマスター』 21
	文字化け	『基本をマスター』 65
	モジュージャック	『応用ガイド』 18
	文字を削除する	『基本をマスター』 31
	[元に戻る (縮小)] ボタン	『基本をマスター』 17
(ヤ)	矢印キー	『応用ガイド』 29
(ユ)	ユーザアカウントの設定を変更する	『基本をマスター』 100
	ユーザアカウントを切り替える	『基本をマスター』 98
	ユーザアカウントを追加する	『基本をマスター』 97
(ヨ)	読みかたがわからない文字を入力する	『基本をマスター』 32
(ラ)	ライトプロテクトタブ (SD メモリカード)	『応用ガイド』 63
	ライトプロテクトタブ (フロッピーディスク)	『応用ガイド』 144
(リ)	リカバリ CD-ROM	『困ったときは』 77
	リリース情報	『応用ガイド』 9
	履歴	『基本をマスター』 57
(ロ)	ローマ字入力	『基本をマスター』 23
	ローマ字入力一覧表	『基本をマスター』 104
	録音レベルの調整	『応用ガイド』 49
(ワ)	ワイヤレスコミュニケーションスイッチ	『応用ガイド』 16
	ワンタッチボタン	『応用ガイド』 22